

第2章 藤枝市の歴史文化資産の概要

本市に所在する歴史文化資産の概要について、文化財保護法等に基づく指定等文化財、未指定の歴史文化資産、日本遺産に分けて説明します。

1 指定等文化財の概要

本市には、文化財保護法等に基づく国・県・市の指定等文化財は、合計101件所在しています。指定等の主体ごとにみると、国指定2件、県指定15件、市指定70件、国登録14件です。文化財類型ごとの件数は、有形文化財のうち建造物22件・美術工芸品39件、無形文化財1件、民俗文化財のうち有形1件・無形8件、記念物のうち遺跡（史跡）16件、動物・植物・地質鉱物（天然記念物）14件となっています。国選択の記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財が2件ありますが、これらは県指定・市指定を受けているものと重複しています。

なお、かつて選定保存技術「建造物木工」の技術保持者として認定を受けていた、松浦まつうら昭次しょうじ（昭和4年－平成29年、1929－2017）は本市出身で、その生涯を金剛輪寺三重塔こんごうりんじさんじゅうのとう（滋

表2-1 指定等文化財一覧

令和5年3月現在

種別	種別	国		県		市		合計	
		指定・選定	登録	指定・選定	指定・選定	小計			
有形文化財	建造物	0	14	0	8		22		
	美術工芸品	計	0	0	4	35	39	39	
		絵画	0	0	0	1	1		
		彫刻	0	0	0	14	14		
		工芸品	0	0	2	4	6		
		書跡・典籍	0	0	1	4	5		
		古文書	0	0	0	8	8		
		考古資料	0	0	1	0	1		
		歴史資料			0	4	4		
無形文化財	計	0	0	0	1	1	1		
民俗文化財	計	0	0	3	6	9	9		
	有形の民俗文化財	0	0	0	1	1			
	無形の民俗文化財	0	0	3	5	8			
記念物	計	2	0	8	20	30	30		
	遺跡（史跡）	2	0	1	13	16			
	名勝地（名勝）	0	0	0	0	0			
	動物・植物・地質鉱物（天然記念物）	0	0	7	7	14			
文化的景観					0	0			
伝統的建造物群					0	0			
合計		2	14	15	70		101		

※記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財

2（うち1件は県指定1件と重複、もう1件は県指定1件・市指定1件の計2件が該当するため重複）

賀県)、熊本城宇土櫓(熊本県)、国分寺金堂(山口県)など国宝・重要文化財の建造物修理の現場で過ごし、晩年には本市に住居を構えました。現在は本域において選定保存技術は所在していません。

第1章2の(2)市域の形成と地区の構成で記したように市域を11地区ごとにみると、①中山間地域の瀬戸谷・稲葉・葉梨・朝比奈の4地区、②江戸時代の東海道とかかわりが深い岡部・広幡・藤枝・西益津・青島地域、③志太平野の南部地域の高洲・大洲地区の3つに分けて捉えることができます。

指定件数では、②の東海道関連地域で多く、特に東海道五十三次の宿場町である旧岡部宿・旧藤枝宿が所在する岡部(岡部)地区と、藤枝地区に指定等文化財が集中しています。中世から近世にかけて市域を支配する拠点となった田中城跡が所在する西益津地区では、田中城や田中藩にかかわる歴史文化資産が主なものです。



写真2-1 旧東海道宇津ノ谷峠越



写真2-2 久遠の松(大慶寺)

表2-2 指定等文化財地区別一覧

令和5年3月現在

種別	地域	①中山間地域 【山・里】				②東海道と関わる地域 【里・まち】				③志太平野南部地域 【里】		市域全体	小計	合計	
		瀬戸谷	稲葉	葉梨	(朝比奈) (岡部)	(岡部)	広幡	藤枝	西益津	青島	高洲				大洲
有形文化財	建造物	1	0	0	0	15	0	0	4	2	0	0	0	22	
	美術工芸品	計	0	0	3	1	22	1	8	2	1	1	0	39	
		絵画	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	
		彫刻	0	0	1	0	10	0	2	0	0	1	0	14	
		工芸品	0	0	2	0	1	0	2	0	1	0	0	6	
		書跡・典籍	0	0	0	0	4	0	1	0	0	0	0	5	
		古文書	0	0	0	1	3	1	1	2	0	0	0	8	
		考古資料	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
歴史資料	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	4			
無形文化財		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
民俗文化財	計	3	0	0	1	3	0	1	0	1	0	0	9		
	有形の民俗文化財	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1		
	無形の民俗文化財	3	0	0	1	3	0	1	0	0	0	0	8		
記念物	計	4	0	5	3	6	2	6	1	2	0	0	30		
	遺跡(史跡)	0	0	4	1	5	1	1	1	2	0	0	16		
	名勝地(名勝)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	動物・植物・地質鉱物(天然記念物)	4	0	1	2	1	1	5	0	0	0	0	14		
文化的景観													0		
伝統的建造物群													0		
合計		8	0	8	5	46	3	15	7	6	1	0	101		

記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財

2 ※瀬戸谷地区3件と重複

※平成21年1月に合併した旧岡部町域は、旧岡部宿を中心とした岡部地区と、旧朝比奈村の朝比奈地区に分けて把握します。

①の中山間地域では、無形の民俗文化財のうち民俗芸能3件はいずれも瀬戸谷地区で伝承されており、天然記念物のうち大きさを理由に指定されているものは、この地域に多くなっています。

③の平野南部地域では、指定件数はわずかとなっていますが、当該地域は江戸時代以降の新田開発によって発展した歴史的背景によるものです。



写真2-3 高根白山神社本殿

(1) 有形文化財

①建造物

市指定8件と国登録14件があり、市指定はいずれも江戸時代に建築されたもの、国登録は旧岡部宿の旅籠や明治時代の砂防施設が中心です。

市内で現存する最古の建造物は、年代は建築様

式からみて江戸時代前期の「高根白山神社本殿」(市指定、瀬戸ノ谷)です。瀬戸川最上流部の市域北部の山間地にあり、市内最高峰の高根山中腹に鎮座しています。江戸時代には高根権現として現静岡市や島田市、川根本町まで広い信仰圏をもった神社で、山間地にありながら丹塗で壁画や彩色をもつ壮麗な本殿です。



写真2-4 木和田川砂防二号堰堤

旧東海道を東から進んでくると岡部宿に入る手前に位置するのが「十石坂観音堂」(市指定、岡部町岡部)で、街道絵図にも描かれています。堂内にある2基の「厨子」は、彩色がなされています。岡部宿の「大旅籠柏屋」(国登録、岡部町岡部)は、宿場町のなかでも上級クラスの旅籠であった建造物です。東海道の難所であった宇津ノ谷峠では、明治時代に築かれたトンネル「明治宇津ノ谷隧道」(国登録、岡部町岡部)により交通の利便性が高まりました。「木和田川砂防堰堤1～8号」「木和田川流路工1号・2号」(いずれも国登録、岡部町岡部)は、明治時代に、東海道沿いに流れる岡部川の上流部にあたる木和田川で、下流域の街道や民家、田畑などを災害から守るため近代的な土木技術によって築られました。

田中城及び田中藩ゆかりの建造物4件(市指定、田中3丁目)は、江戸時代の藩主下屋敷があった場所を整備した史跡公園である史跡田中城下屋敷において、移築復元されています。いずれも明治時代に廃城となった後に民間に払下げられ、個人宅に伝来していたものです。「田中城本丸櫓」は本丸を囲む石垣の上にあった隅櫓、「茶室」は藩主の別荘庭園であった下屋敷に置かれていたもの、「仲間部屋・厩」は仲間と呼ばれた下級藩士の住宅で、住居に厩が付属した建物です。また、「長楽寺村郷蔵」は村の年貢米の保管や飢饉に備えた備蓄をするために村に置かれた蔵で、村方の生活にかかわりがあります。

表2-3 市域の指定等文化財一覧

No	指定	種 別		名 称	員数	所在地	所有者/ 保持者	指定年月日
1	国	記念物	遺跡（史跡）	志太郡衙跡	1	南駿河台一丁目	藤枝市	昭55.10.22
2	国	記念物	遺跡（史跡）	東海道宇津ノ谷峠越	1	岡部町岡部・ 静岡市駿河区 宇津ノ谷	藤枝市・ 静岡市 他	平22.2.22
3	国	登録有形	建造物	潮生館本館	1	志太	個人	平16.11.8
4	国	登録有形	建造物	潮生館香梅荘	1	志太	個人	平16.11.8
5	国	登録有形	建造物	明治宇津ノ谷隧道	1	岡部町岡部・ 静岡市駿河区 宇津ノ谷	藤枝市・静岡 市	平9.5.7
6	国	登録有形	建造物	大旅籠柏屋	1	岡部町岡部	藤枝市	平10.10.9
7	国	登録有形	建造物	木和田川砂防一号堰堤	1	岡部町岡部	静岡県	平14.7.16
8	国	登録有形	建造物	木和田川砂防二号堰堤	1	岡部町岡部	静岡県	平14.7.16
9	国	登録有形	建造物	木和田川砂防三号堰堤	1	岡部町岡部	静岡県	平14.7.16
10	国	登録有形	建造物	木和田川砂防四号堰堤	1	岡部町岡部	静岡県	平14.7.16
11	国	登録有形	建造物	木和田川砂防五号堰堤	1	岡部町岡部	静岡県	平14.7.16
12	国	登録有形	建造物	木和田川砂防六号堰堤	1	岡部町岡部	静岡県	平14.7.16
13	国	登録有形	建造物	木和田川砂防七号堰堤	1	岡部町岡部	静岡県	平14.7.16
14	国	登録有形	建造物	木和田川砂防八号堰堤	1	岡部町岡部	静岡県	平14.7.16
15	国	登録有形	建造物	木和田川一号流路工	1	岡部町岡部	静岡県	平14.9.3
16	国	登録有形	建造物	木和田川二号流路工	1	岡部町岡部	静岡県	平14.9.3
17	県	有形	工芸	鰐口 天文七年在銘	1	北方	安楽寺	昭33.10.30
18	県	有形	工芸	太刀 銘（小駒宗太平 胤長造弘化丙午冬為小 川為縷）	1	市内	個人	昭39.4.21
19	県	有形	書跡	紙本墨書縁生論	1	原	清水寺	昭31.1.7
20	県	有形	考古資料	志太郡衙関連遺跡出土 文字資料	338	郷土博物館	市教委	平16.2.27
21	県	民俗	無形民俗	高根白山神社古代神楽	1	瀬戸ノ谷	高根白山神社古 代神楽保存会	昭43.3.19
22	県	民俗	無形民俗	滝沢八坂神社の田遊	1	滝沢	滝沢八坂神社の 田遊び保存会	昭49.4.18
23	県	民俗	無形民俗	朝比奈大龍勢	1	岡部町新舟	朝比奈龍勢保 存会	平15.3.24
24	県	記念物	遺跡（史跡）	若王子古墳群	1	蓮華寺池公園内	藤枝市	平7.3.20
25	県	記念物	動植物等 （天然記念物）	久遠の松	1	藤枝四丁目	大慶寺	昭30.2.25
26	県	記念物	動植物等 （天然記念物）	若一王子神社の社叢	1	若王子	若一王子神社	昭31.5.24
27	県	記念物	動植物等 （天然記念物）	須賀神社の楠	1	水守	須賀神社	昭33.9.2
28	県	記念物	動植物等 （天然記念物）	鼻崎の大杉	1	瀬戸ノ谷	高根白山神社	昭36.3.28
29	県	記念物	動植物等 （天然記念物）	高根神社の杉	1	瀬戸ノ谷	高根白山神社	昭36.3.28
30	県	記念物	動植物等 （天然記念物）	芋穴所の丸櫨	1	瀬戸ノ谷	高根白山神社	昭37.2.27

序
章第
1
章第
2
章第
3
章第
4
章第
5
章第
6
章第
7
章第
8
章第
9
章

序章	31	県	記念物	動植物等 (天然記念物)	万年寺のカヤ	1	岡部町新舟	万年寺	昭53.10.20
	32	市	有形	建造物	長屋門	1	岡部町子持坂	市教委	昭47.7.1
第1章	33	市	有形	建造物	十石坂観音堂	1	岡部町岡部	川原町町内会	昭48.4.1
	34	市	有形	建造物	厨子	2	岡部町岡部	川原町町内会	昭48.4.1
第2章	35	市	有形	建造物	高根白山神社本殿	1	瀬戸ノ谷	高根白山神社	昭57.11.1
	36	市	有形	建造物	田中城本丸櫓	1	史跡田中城 下屋敷	藤枝市	平5.4.26
第3章	37	市	有形	建造物	長楽寺村郷蔵	1	史跡田中城 下屋敷	藤枝市	平5.4.26
	38	市	有形	建造物	茶室	1	史跡田中城 下屋敷	藤枝市	平5.4.26
第4章	39	市	有形	建造物	仲間部屋・厩	1	史跡田中城 下屋敷	藤枝市	平5.4.26
	40	市	有形	絵画	木喰上人恵比寿大黒天 画像	1	岡部町内谷	個人	昭55.7.7
第5章	41	市	有形	彫刻	聖観世音菩薩	1	高柳	清林寺	昭32.5.28
	42	市	有形	彫刻	木喰上人作毘沙門天	1	高田	常楽院	昭42.7.20
第6章	43	市	有形	彫刻	聖徳太子像	1	岡部町内谷	光泰寺	昭47.7.1
	44	市	有形	彫刻	准胝観音像	1	岡部町内谷	光泰寺	昭47.7.1
第7章	45	市	有形	彫刻	子安地藏菩薩像	1	岡部町三輪	十輪寺	昭47.7.1
	46	市	有形	彫刻	虚空蔵菩薩像	1	岡部町三輪	十輪寺	昭47.7.1
第8章	47	市	有形	彫刻	子安地藏菩薩像	1	岡部町桂島	梅林院	昭47.7.1
	48	市	有形	彫刻	薬師如来像	1	岡部町桂島	梅林院	昭47.7.1
第9章	49	市	有形	彫刻	薬師如来像	1	岡部町三輪	興福寺	昭47.7.1
	50	市	有形	彫刻	西行像	1	岡部町岡部	専称寺	昭47.7.1
第10章	51	市	有形	彫刻	五智如来像	5	岡部町内谷	個人	昭48.4.1
	52	市	有形	彫刻	不動尊像	1	岡部町岡部	専称寺	昭48.4.1
第11章	53	市	有形	彫刻	木造不動明王坐像	1	藤枝三丁目	鬼岩寺	平元.8.23
	54	市	有形	彫刻	市部延命地藏堂の石造 六地藏像	6	天王町二丁目	市部第二町内会	平14.3.20
第12章	55	市	有形	工芸	花枝双蝶八花鏡	1	下之郷	個人	昭31.12.1
	56	市	有形	工芸	鬼岩寺の鰐口	1	藤枝三丁目	鬼岩寺	昭40.8.9
第13章	57	市	有形	工芸	山内家雛人形「御殿飾」	1	岡部町内谷	市教委	平12.11.29
	58	市	有形	工芸	清水寺の金銅千手観音 懸仏	1	原	清水寺	平14.3.20
第14章	59	市	有形	書跡	木喰上人託宣書軸	1	岡部町三輪	十輪寺	昭55.7.7
	60	市	有形	書跡	木喰上人御題目書軸	1	岡部町三輪	個人	昭55.7.7
第15章	61	市	有形	書跡	木喰上人託宣書画	4	岡部町内谷	個人	昭55.7.7
	62	市	有形	書跡	木喰上人短歌書軸	1	岡部町子持坂	個人	平9.10.1
第16章	63	市	有形	古文書	田中城絵図	1	郷土博物館	市教委	昭32.3.16
	64	市	有形	古文書	田中城古図	1	郷土博物館	市教委	昭41.3.18
第17章	65	市	有形	古文書	蘿径記碑	1	岡部町岡部	坂下町内会	昭48.4.1
	66	市	有形	古文書	河野菰園碑文	1	岡部町岡部	専称寺	昭48.4.1
第18章	67	市	有形	古文書	朝比奈家文書	14	岡部町殿	個人	平11.3.31
	68	市	有形	古文書	岡部宿本陣仁藤文書	17	岡部町内谷	市教委	平19.6.28
第19章	69	市	有形	古文書	岡部家文書	5	郷土博物館	市教委	令1.9.30

70	市	有形	古文書	東海道藤枝宿往還家並 絵図	1	郷土博物館	市教委	令 1. 9.30
71	市	有形	歴史資料	高札	1	岡部町内谷	市教委	昭48. 4. 1
72	市	有形	歴史資料	岡部長慎奉納絵馬	1	岡部町内谷	市教委	平11.3.31
73	市	有形	歴史資料	鬼岩寺の石塔群	1	藤枝三丁目	鬼岩寺	平14. 3.20
74	市	有形	歴史資料	関札	1	岡部町内谷	市教委	平19. 6.28
75	市	無形		手揉製茶技術	1	岡部町羽佐間	八木力吉	平13. 3.30
					1	岡部町宮島	遠藤春夫	平16. 3. 1
					1	岡部町宮島	前島敏彦	平16. 3. 1
76	市	民俗	有形民俗	瀬戸の染飯版木	1	内瀬戸	個人	昭34. 1.21
77	市	民俗	無形民俗	カミコロバシ	1	岡部町岡部	若宮八幡宮	昭48. 4. 1
78	市	民俗	無形民俗	山宮祭	1	岡部町三輪	神神社	昭48. 4. 1
79	市	民俗	無形民俗	山の神祭	1	岡部町三輪	神神社	昭48. 4. 1
80	市	民俗	無形民俗	滝沢八坂神社の神楽	1	滝沢	滝沢八坂神社 の神楽保存会	平14. 3.20
81	市	民俗	無形民俗	飽波神社大祭の奉納踊り	1	藤枝五丁目	飽波神社大祭の 奉納踊り保存会	令 1. 9.30
82	市	記念物	遺跡（史跡）	衣原古墳群	1	中ノ合・ 下之郷地内	個人	昭31.12. 2
83	市	記念物	遺跡（史跡）	田中城址	1	田中一丁目 外	藤枝市 他	昭32. 3.16
84	市	記念物	遺跡（史跡）	千貫堤	1	下青島	個人	昭34. 1.21
85	市	記念物	遺跡（史跡）	今川泰範の五輪塔	1	下之郷	長慶寺	昭34. 8.18
86	市	記念物	遺跡（史跡）	雪斎長老の無縫塔	1	下之郷	長慶寺	昭34. 8.18
87	市	記念物	遺跡（史跡）	岡部氏墓	1	岡部町子持坂	万松院	昭47. 7. 1
88	市	記念物	遺跡（史跡）	岡部宿本陣址	1	岡部町岡部	藤枝市	昭48. 4. 1
89	市	記念物	遺跡（史跡）	入野古墳	1	岡部町入野	個人	昭48. 4. 1
90	市	記念物	遺跡（史跡）	つたの細道	1	岡部町岡部	市教委	昭48. 4. 1
91	市	記念物	遺跡（史跡）	朝比奈城址	1	岡部町殿	個人	昭48. 4. 1
92	市	記念物	遺跡（史跡）	朝日山城跡	1	仮宿2 外	稲荷神社	昭55. 1.16
93	市	記念物	遺跡（史跡）	花倉城跡	1	花倉	個人	昭61. 3.28
94	市	記念物	遺跡（史跡）	旧東海道の松並木	1	岡部町内谷・ 上青島	静岡県	平 9.10. 1
95	市	記念物	動植物等 （天然記念物）	蓮生寺のイブキ	1	本町一丁目	蓮生寺	昭32. 3.16
96	市	記念物	動植物等 （天然記念物）	北方のトキワガキ	1	北方 地内	個人	昭32. 5.28
97	市	記念物	動植物等 （天然記念物）	ハゴロモクリハラン	1	本郷 地内	個人	昭32. 5.28
98	市	記念物	動植物等 （天然記念物）	かや	1	岡部町子持坂	常願寺	昭47. 7. 1
99	市	記念物	動植物等 （天然記念物）	すぎ	1	岡部町青羽根	大井神社	昭47. 7. 1
100	市	記念物	動植物等 （天然記念物）	月見里神社のクス	1	藤枝三丁目	月見里神社	昭61.10. 6
101	市	記念物	動植物等 （天然記念物）	本願のマツ	1	藤枝二丁目	正定寺	昭61.10. 6

記念物…史跡名勝天然記念物、登録有形…登録有形文化財、有形…有形文化財、無形…無形文化財、民俗…民俗文化財、動植物等（天然記念物）…動物・植物・地質鉱物（天然記念物）

序章

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

第8章

第9章

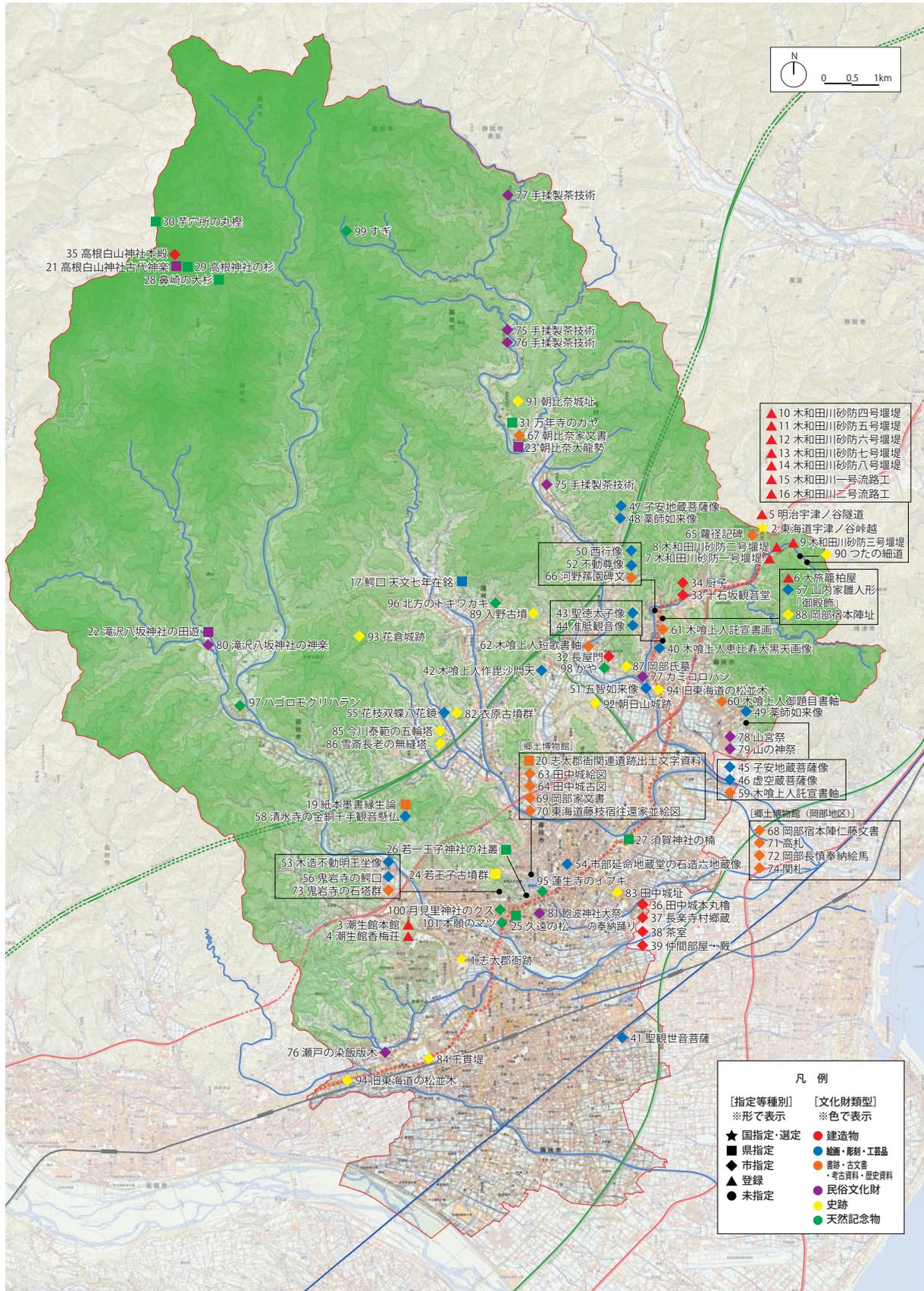


図2-1 指定等文化財分布図

茅葺で重厚な佇まいの「長屋門」(岡部町子持坂)は、江戸時代後期の農村の有力者の住居敷地内に建てられたものです。

昭和初期に建築された「潮生館本館」と離れの「潮生館香梅荘」(国登録、志太)は、明治時代に開業した志太温泉の旅館建築です。近代和風の旅館建築は、静岡県内では伊豆地方に多くみられますが中部地方では数が少なく、希少な遺構です。

②美術工芸品

a 絵画

市指定の1件は、江戸時代中期に廻国修行をし、全国で書画を残した木喰上人(享保3年-文化7年・1718-1810、甲斐国出身)が描いた「恵比須大黒天画像」(岡部町岡部)です。

木喰上人は、素朴で独特な作風の木彫りの仏像など、全国にその足跡を残していますが、83歳の時、寛政12年(1800)の6~8月にかけて藤枝市岡部町付近から焼津市にかけて滞在し、多くの書画や彫刻を残しました。

b 彫刻

平安時代後期から鎌倉時代のもの4件のほかは江戸時代で、諸国を廻った木喰上人による木像(木喰仏)が7体みられることが特徴です。

市内最古の仏像は平安時代後期のもので、清林寺の「聖観世音菩薩」(市指定、高柳)と、興福寺の「薬師如来像」(市指定、三輪)、鬼岩寺の「木造不動明王坐像」(市指定、藤枝3丁目)の3件があります。専称寺には鎌倉時代の「不動明王像」(市指定、岡部町岡部)が伝来しています。

石造の「五智如来像」(市指定、岡部町岡部)は5体の石像で、江戸中期に旧岡部宿の西木戸付近にあった誓願寺に奉納されたものです。「市部延命地藏堂の石造六地藏像」(市指定、天王町2丁目)は6体の地藏菩薩像で、台座に宝永5年(1708)の年号が刻まれています。

木喰上人が、寛政12年(1800)に藤枝市岡部町から焼津市にかけて滞在した折に残した木像群は、市域では常楽院(高田)に「木喰上人作毘沙門天」、梅林院(岡部町桂島)に「子安地藏菩薩像」「薬師如来像」、光泰寺(岡部町岡部)に「聖徳太子蔵」「准胝観音像」、十輪寺(岡部町三輪)に「子安地藏菩薩像」「虚空蔵菩薩像」の計7体で、市指定されています。



写真2-5 聖徳太子像(木喰仏、光泰寺)



写真2-6 西行像(専称寺)

江戸時代中期の「西行像」(市指定、岡部町岡部)は、もとは十石坂観音堂にあったもので、平安時代末の有名な歌人である西行の旅姿をあらわしています。旧東海道の岡部地域は、古典文学の「西行物語」で弟子の西住が没した場所とされており、江戸時代に古典文学ゆかりの地として認知されていたことを示すものです。

c 工芸品

鰐口2件、懸仏1件、雛人形1件が指定されています。

市域では唯一の天台宗寺院である安楽寺には、戦国時代の天文7年(1538)の年号が記された「鰐口 天文七年在銘」(県指定、北方)、奈良時代の開創と伝わる真言宗の鬼岩寺には江戸時代初期の慶長16年(1611)の年号をもつ「鬼岩寺の鰐口」(市指定、藤枝3丁目)があります。

「清水寺の金銅千手観音懸仏」(市指定、原)は神仏習合の時代にご神体として祀られていたとみられるもので、鎌倉時代の弘長2年(1262)の年号が刻まれています。

「山内家雛人形『御殿飾』」(市指定、岡部町岡部)は、京都御所の建物を精巧に模した3棟の御殿(紫宸殿・清涼殿・宜陽殿)からなる豪華な雛飾一式です。旧岡部宿の山内家に伝来し、外箱に江戸時代後期の安政3年(1856)の年号が記されています。



写真2-7 鰐口 天文七年在銘 (鬼岩寺)



写真2-8 山内家雛人形「御殿飾」

d 書跡・典籍

清水寺の「紙本墨書縁生論」(県指定)は、奈良時代後期を代表する写経である神護景雲経(※コラム)のうちの一巻で、地方に伝来する貴重な例です。

木喰上人が残した足跡のうち、書は3件(7点)が市指定となっています。「木喰上人御題目書軸」(岡部町子持坂)、「木喰上人短歌書軸」(岡部町子持坂)、「諸神託宣書」(岡

コラム 神護景雲経

称徳天皇(在位764-769)が先聖(淳仁天皇または父の聖武天皇)のために発願し、一切経を書写した写経です。称徳天皇御願経で神護景雲経とも呼ばれ、現在でも奈良東大寺の正倉院聖語蔵に約740巻が所蔵され、このほか約50巻が各地に分散して伝来しています。

部町内谷) などです。

e 古文書

市域ゆかりの武家にかかわるもの、東海道にかかわるものが中心になっています。

仮宿地域が発祥の地で、鎌倉時代から名がみえる武士の一族岡部氏に関連する古文書群である「岡部家文書」(市指定、市郷土博物館※以下、市博物館)、同じく中世の文献に名がみえる地域ゆかりの一族で、朝比奈川上流域を拠点とした朝比奈氏にゆかりの「朝比奈家文書」(市指定、岡部町殿)は、いずれも武家に伝来した古文書で、今川氏・武田氏・徳川氏と市域を支配した戦国大名と地域の武士団とのかかわりを示しています。

中世に起源をもち江戸時代末まで、志太平野を治める中枢であった田中城に関連する資料である「田中城絵図」「田中城古図」は、いずれも市指定(市博物館)で、時代により城郭の変遷を知ることができます。

江戸時代の旧東海道に関連する文化財では、江戸時代後期に宇津ノ谷峠越の山道沿いに建てられた「羅徑記碑」(市指定、岡部町岡部)は、古典文学の「伊勢物語」にゆかりの地として著名であった蔦の細道を顕彰する碑文が刻まれています。十石坂観音堂の境内にある「河野蓀園碑文」(岡部町岡部)は、岡部宿を代表する文化人を顕彰するものです。

宿場町に関連するものでは、岡部宿に所在した2つの本陣のうち仁藤家に伝来した「岡部宿本陣仁藤文書」(市指定、市博物館)、天保13年(1842)に作成された「東海道藤枝宿往還家並絵図」(市指定、市博物館)に、藤枝宿の宿場町の様子が詳細に記録されています。



写真2-9 羅徑記碑

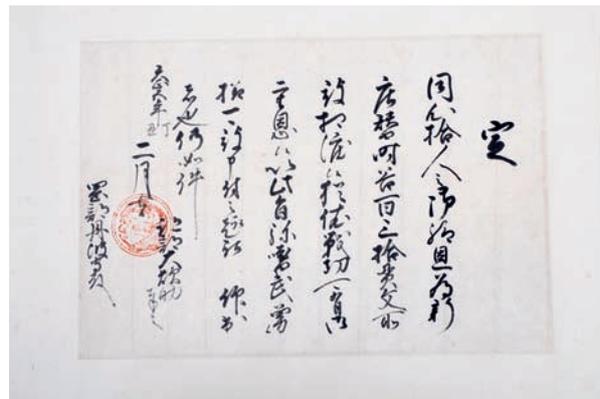


写真2-10 岡部家文書

f 考古資料

県指定の1件は「志太郡衙関連遺跡出土文字資料」(市博物館)で、国史跡志太郡衙跡において出土した木簡や墨書土器と、周辺の関連遺跡における出土資料を併せた338点です。志太郡の郡役所遺跡と比定するうえでの有力な根拠となった出土文字資料です。

g 歴史資料

市域ゆかりの武家にかかわるもの、東海道にかかわるものが中心になっています。

若宮八幡宮の「岡部長慎奉納絵馬」(市指定、岡部町岡部)は、江戸時代に岸和田藩(大阪府)の藩主となった岡部氏が祖先ゆかりの地に奉納したものです。「鬼岩寺の石塔群」(市指定)は藤枝宿に近い鬼岩寺境内の背後の山から出土したもので、部材数は1,600点以上にのぼり、応安6年(1373)～応永12年(1405)にかけての年号や、今川氏家臣の矢部氏の名を記した銘をもつ、南北朝から戦国時代の中世石塔を含む石塔群です。

江戸時代の旧東海道の岡部宿に関連する文化財では、本陣の仁藤家で大名行列などの通行の際に、宿泊者を掲出するのに使用された「関札」(市指定、市博物館)、宿場町で掲示された「高札」(市指定、市博物館)があります。



写真2-11 鬼岩寺の石塔群



写真2-12 高札

(2) 無形文化財

製茶は静岡を代表する産業であり、江戸時代後期以降の茶生産の発展に伴い、茶葉を製品として仕上げる技術も、先進地である宇治に学びながら、さらに独自の技術として磨きをかけ、向上の努力を重ね、県内各地で伝承されました。市指定の「手揉製茶技術」は、市域では青透流と鳳明流を中心として伝承されています。



写真2-13 手揉製茶技術

(3) 民俗文化財

①有形の民俗文化財

旧東海道の瀬戸の立場では、梶子で黄色く染めた染飯が、街道名物「瀬戸の染飯」として売られていました。「瀬戸の染飯版木」(市指定、市博物館)は、この染飯の包み紙を刷るときに使用されたものです。



写真2-14 瀬戸の染飯版木

②無形の民俗文化財

無形民俗文化財は、山間地域に伝承されるもの、宿場町に伝承されるものが中心となっています。

一年の初めに農作業を模した舞を奉納する「滝沢八坂神社の田遊」(県指定、滝沢)、10月に奉納される「高根白山神社古代神楽」(県指定、瀬戸ノ谷)、「滝沢八坂神社の神楽」(市指定、滝沢)があります。

朝比奈地区で伝承される、大型の打上花火の「朝比奈大龍勢」(県指定、新舟)は明治時代初めには行われていた記録が残り、2年に一度10月に、13の地区(連)ごとに作成した全長約10mの花火を、高さ約20mの櫓から打ち上げます。

記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財は、「滝沢八坂神社の田遊」(県指定)と「静岡県中部地方の神楽」で、後者は本市を含め静岡市・川根本町の山間部にかけて分布する神楽で、「高根白山神社古代神楽」(県指定)と「滝沢八坂神社の神楽」(市指定)が含まれます。

旧藤枝宿場町を中心とする地域で明治時代以降に定着した「飽波神社大祭の奉納踊り」(市指定、藤枝4丁目)は、江戸風の芸能文化をしのぼせる行事です。岡部地区の総社である若宮八幡宮の「カミコロバシ」(市指定、岡部町岡部)は、氏子の男性が境内でもみ合い転びながら膳や瓶を運び、併行して供物をのせた75の膳を、順次神前に奉納する秋の祭礼行事です。

山の信仰を伝える三輪神社(岡部町三輪)では「山宮祭」(市指定)、高草山の中腹で行う「山の神祭」(市指定)が伝承されています。焼津市にかけての高草山山麓で、類似した行事が伝承されています。



写真2-15 滝沢八坂神社の神楽



写真2-16 山の神祭

(4) 記念物

①遺跡（史跡）

原始・古代の遺跡（史跡）2件のほか、戦国時代から江戸時代の城跡や東海道ゆかりのものが中心となっています。

県指定の「若王子古墳群」（若王子）は、古墳時代前期から中期に突出した大規模古墳が登場せず、地域の有力古墳が群集形態をなす、西駿河地方の個性的な古墳文化を表しています。市指定の「衣原古墳群」（中ノ合）、「入野古墳」（岡部町入野）は、市域において後期に増加する横穴式石室墳を代表するものです。「志太郡衙跡」（南駿河台1丁目）は、奈良・平安時代の駿河国志太郡の郡役所跡で、郡役人の役職である「大領」「少領」や、「志太」の地名を記した墨書土器などの文字資料によって裏付けられたこと、地方における郡役所の個性的な在り方を示しているものとして、国指定を受けています。

「旧東海道宇津ノ谷峠越」（岡部町岡部）は、江戸時代には主要幹線道路である東海道の難所として知られた峠越の道で、峠を境に静岡市とまたがって国指定を受けています。江戸時代より前の峠越えの道「蔦の細道」（市指定、岡部町岡部）は、古典文学「伊勢物語」に蔦の生い茂る寂しい山道として歌に詠まれ、歌枕の地として文学・芸術作品に数多く取り上げられています。

城郭では、地域ゆかりの武士とのかかわりがある山城の市指定が3件あり、朝比奈氏ゆかりの「朝比奈城址」（市指定、岡部町殿）、岡部氏ゆかりの「朝日山城跡」（市指定、仮宿）、今川氏ゆかりの「花倉城跡」（市指定、花倉）のほか、同心円状の特徴的な縄張りの平城である「田中城址」（市指定、田中）は中世から近世にかけて、志太地域を治める拠点で、田中藩が置かれ明治維新で廃城となりました。

駿河今川氏3代目の今川泰範の菩提寺である長慶寺（下之郷）では、供養塔である「今川泰範の五輪塔」、今川義元の軍師であった太源崇孚雪斎の供養塔である「雪斎長老の無縫塔」が、市指定となっています。また、岡部氏ゆかりの萬松院（岡部町子持坂）の「岡部氏墓」（市指定）では、2基の宝篋印塔と1基の五輪塔があり岡部氏一族を祀ったものと伝わっています。

江戸時代の岡部宿では2軒あった本陣のうち、内野家の本陣跡の敷地全体が残されてお



写真2-17 志太郡衙跡



写真2-18 若王子古墳群



写真2-19 岡部氏墓

り「岡部宿本陣址」として市指定となっています。国登録の「大旅籠柏屋」から「岡部宿本陣址」にかけては、宿場町の景観を偲ばせるエリアとして整備されています。旧東海道沿いに整備された松並木を継承し、その景観を伝えている岡部町内谷地内と上青島地内では「旧東海道の松並木」が市指定となっています。

江戸時代の堤防跡である「千貫堤」(市指定、上青島)は、大井川の水害から田中藩領を守るために築かれたとされるものです。

②植物、動物、地質鉱物(天然記念物)

指定されているのは植物のみで、市内北部の山間地に分布する巨樹、旧東海道沿いの社寺に所在するものが中心です。

県指定の「鼻崎の大杉」「高根神社の杉」「芋穴所の丸榎」は本市における最高峰である、高根山の中腹に位置する高根白山神社(瀬戸ノ谷)の境内地にある御神木です。また、朝比奈川上流域では「萬年寺のカヤ」(県指定・岡部町新舟)、「すぎ」(市指定・岡部町青羽根)、中流域では「かや」(子持坂)が市指定となっています。

旧東海道沿いの社寺では、大慶寺(藤枝4丁目)の「久遠の松」、「若一王子神社の社叢」(若王子)、「須賀神社の楠」(水守)が県指定、正定寺(藤枝2丁目)の「本願のマツ」、「月見里神社のクス」(藤枝3丁目)、「蓮生寺のイブキ」(本町1丁目)が市指定となっています。

このほか市指定では、分布の北限として「トキワガキ」(北方)、クリハランの変種で希少種の「ハゴロモクリハラン」(本郷)があります。



写真2-20 鼻崎の大杉

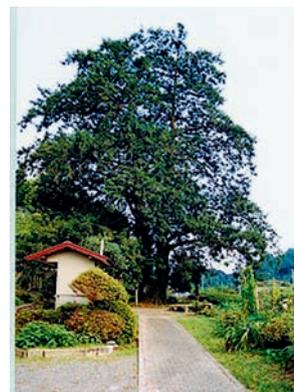


写真2-21 萬年寺のカヤ

2 未指定の歴史文化資産

未指定の歴史文化資産は、静岡県調査事業で把握されたもの、『藤枝市史』『岡部町史』の編さん事業のほか、藤枝市郷土博物館の特別展企画展に伴う調査等によるものを中心として、令和5年3月現在、967件を把握しています。古文書や歴史資料、考古資料など複数で一括した資料群として捉えられるものは、資料群ごとに1件としています。建造物は、近代化遺産、近代和風を含め60件、美術工芸品277件、民俗文化財のうち有形の民俗文化財69件、無形の民俗文化財126件、記念物のうち遺跡(史跡)41件、名勝地(名勝)1件、動物・植物・地質鉱物(天然記念物)13件、文化的景観2件、伝統的建造物群2件です。また、埋蔵文化財包蔵地174件、その他(伝説・民謡等)202件です。未指定の歴史文化資産のうち代表的なものについて、以下で説明します。

表2-4 未指定の歴史文化資産
令和5年3月現在

種 別		件数	
有形文化財	建造物	60	
	美術工芸品	計	277
		絵画	7
		彫刻	59
		工芸品	31
		書跡・典籍	10
		古文書	75
		考古資料	27
歴史資料	68		
無形文化財		0	
民俗文化財	計	195	
	有形の民俗文化財	69	
	無形の民俗文化財	126	
記念物	計	55	
	遺跡(史跡)	41	
	名勝地(名勝)	1	
	動物・植物・地質鉱物(天然記念物)	13	
文化的景観		2	
伝統的建造物群		2	
埋蔵文化財包蔵地		174	
その他(伝説・民謡等)		202	
合 計		967	

(1) 有形文化財

①建造物

江戸時代の東海道沿いに所在するもの、近現代の交通に関わるものがあります。

旧東海道岡部宿の黒石家住宅(岡部町内谷)は、宿場町に現存する唯一の江戸時代後期に建築された町家建築です。岡部川と朝比奈川の合流点に位置し、朝比奈川対岸の仮宿付近を発祥の地とする武士の岡部氏とゆかりが深い若宮八幡宮本殿は江戸時代後期の建築です。

②美術工芸品

a 絵画

江戸時代の藤枝宿場町では、東海道を歩き交う文化人の交流が盛んで、町人のなかには絵画など様々な文芸をたしなみ近隣に知られた人物もありました。大塚荷溪などがその代表で、文人画など数々の絵画作品を残しました。

b 彫刻

藤枝市史編さん事業に伴う仏像調査で把握されたもののうち、代表的なものは、観音寺

(瀬古)の千手観音立像(鎌倉時代)、慈眼寺(横内)の阿弥陀如来坐像(平安時代後期)です。

駿河今川氏とゆかりがある長慶寺には、今川義元の軍師として知られる雪斎の木像が伝来しています。

常昌院(岡部町内谷)では、志太地域の出身者で日清日露戦争における戦没者を、一人一人をかたどった木像群224体が伝来しています。類例は全国的に見てもわずかししか知られず、日清日露の戦没者慰霊にかかわる歴史文化資産としては珍しいものです。



写真2-22 常昌院の木像群

c 工芸品

鰐口など社寺にかかわるものや、藤枝宿の鍛冶町で操業した刀鍛冶にかかわるものなどがあります。

安楽寺(北方)では、県指定の鰐口のほかにもう1口鰐口を所蔵していますが、年代は不明です。

江戸時代の藤枝宿で操業していた刀鍛冶の、重信鍛冶は近年まで重信刃物店として継続しており、江戸時代末頃の脇差等の刀剣類が伝来しています。



写真2-23 重信鍛冶が作刀した脇差

d 書跡・典籍

田中藩士の家に生まれ、明治・大正時代に活躍した書家、小野鷲堂(1862-1922)の作品群は、鷲堂流と称して実用性と芸術性の融合を目指した独自性があり、優美な書風です。伝統的な日本の書跡の研究や書道の普及に努めました。

藤枝宿長楽寺町に育ち、大正・昭和時代を中心に活躍した書家、沖六鳳(1895-1982)は小野鷲堂に師事して書を学び、市内で書道塾を開いて多くの子どもたちを教えました。静岡県の書道界発展の中心的人物で、市内には多くの作品が残ります。自伝を基にしたテレビドラマ「三人の母」(昭和43年)で話題になりました。

e 古文書

戦国時代には今川氏、武田氏、徳川氏による攻防が繰り広げられ、市域はその支配下に入っていることから、これらの戦国大名によって発給された古文書が残されており、清水寺(原)所蔵の古文書、円良寺(築地)所蔵の古文書などがあります。

江戸時代に藤枝宿・岡部宿が東海道五十三次の宿場町として公式に認可されたことを示

序章
第1章
第2章
第3章
第4章
第5章
第6章
第7章
第8章
第9章

す古文書、江戸時代の村々において生活や生業なりわいにかかわる重大事である水にまつわる争論の古文書（上当間かみどうま、蓮華寺池れんげじいけ）、明治時代に江戸から移住した幕臣が行った山林の開拓にかかわる古文書（石井家文書）など、市域における歴史を伝える様々な古文書が伝来しています。

f 考古資料

市内の遺跡から出土した考古資料のうち主なものを時代別に取り上げます。

天ヶ谷遺跡出土の縄文時代の土偶どぐうは、頭部のみで残存長4cm程度と小型ですが、市域で唯一の出土例です。

上藪田モミダ遺跡から出土した弥生時代の壺で、器壁の外側に籠の痕跡が残る土器は、壺を籠に入れて使用した具体的な使用方法を伺わせる好例で、昭和50年代の発見当時は希少な出土例として有名になりました。

古墳時代前期から中期にかけての群集墳である若王子古墳群の12号墳から出土した車輪石せき（貝でつくられた腕輪を模した石製品）は、関西地方を中心に出土が多いものですが、出土地としては最も東からの事例となっています。古墳時代後期の瀬戸古墳群は約130基からなる大古墳群で、刀の飾金具など金銀を施した豪華な副葬品があり、地域の有力者が築いたものと考えられています。なかでも、瀬戸古墳群のE9号墳から出土した金銅製双龍環頭大刀柄頭そうりゅうかんとう た ちつかがしら（銅の本体に金をかぶせたもの、2頭の龍が向かい合うデザイン）や、東正勝古墳群の5号墳から出土した銀象嵌円椎大刀柄頭ぎんぞうがんかぶつち た ちつかがしら（鉄の本体に細い銀線で模様を描く）などが代表的です。

奈良・平安時代には市域は志太郡と益頭郡に該当していましたが、郡遺跡から出土した、「益厨ましくりや」などの墨書土器や木簡などは、益頭郡の郡役所であることを裏付ける資料です。



写真2-24 車輪石



写真2-25 金銅製双龍環頭
大刀柄頭



写真2-26 銀象嵌円椎大刀柄頭

g 歴史資料

今川氏とゆかりが深い徧照寺へんしょうじ（旧徧照光寺、花倉）の境内で保存されている石塔群には、永徳3年（1383）の記年銘をもつものがあります。

江戸時代の東海道の設置されたもので、田中藩領に入ること示す石製の表示ぼうである傍示石せきは、史跡田中城下屋敷の敷地内に保存されています。

また、旧藤枝宿の町並みで、街道沿いの若一王子神社参道の入口に置かれた石灯籠は、文化12年（1845）の記年銘があり、市内に残る秋葉灯籠としては最古です。

大正時代に開業し、藤枝駅から焼津市の大井川下流域、駿河湾沿岸の吉田町・牧之原市、さらに袋井市まで結んだ軽便鉄道で使された「機関車B-15」の車両は、藤枝市郷土博物館・文学館の敷地内で保存され、現地公開されています。

太平洋戦争の戦時中には、旧藤枝宿場町の北側の丘陵上に敵機の来襲を監視する防空監視哨が置かれ、その記録は戦時中の人々の様子を伝える貴重な資料です。

県立志太中学校（現県立藤枝東高等学校）でサッカーを校技として取り入れたことに始まる、サッカーのまちとしての歩みを示す資料としては、昭和時代の東京オリンピックでのサッカー競技に関連する資料等があります。

平成11年（1999）に選定保存技術「建造物木工」保持者に認定された松浦昭次（平成29年（2017）逝去）は、市内に在住していました。本人が建造物修理現場で愛用した道具類や従事した修理に関わる資料、後継者育成のための活動や交友関係に関わる資料等は、その生涯と人物を伺うことができる資料です。



写真2-27 藤枝防空監視哨資料

（2）民俗文化財

①有形の民俗文化財

志太地域では、男子の健やかな成長を祈願して4月に天神人形を飾る風習があり、地域に固有の作風を持つものは志太天神と呼ばれています。

旧藤枝宿の長楽寺町では、江戸時代後期にだるま製作を行った、内田だるま店で使された練人形の型など玩具製作の様子を伝える資料群が残されています。

旧岡部町域で明治時代に始まり特産として知られた歯染細工は、山野に自生する歯染を用いた工芸品で籠や重箱など多彩な品目があり、国内だけでなく輸出品目としても盛んに生産されました。

また、製茶に関わる資料では、手揉製茶に使用した民具や、手揉製茶の技術を学んだ伝



写真2-28 雛人形 志太天神

習生たちが学び終えた記念に氏名を記した伝習旗^{でんしゅうき}などがあります。

②無形の民俗文化財

桐ダンスは、江戸時代の宿場町には様々な職人が居住しており、技術を有する人材があったことに由来し、桐の良材が入手できる集積地としての地の利などの条件が合って、明治時代から昭和時代の中頃まで製造が盛んでした。

茶の輸出が盛んになると、その梱包用の茶箱^{ちやばこ}製作が盛んになりました。大井川上流域などから入手した材木は質が良く、職人が板を組合せて箱を作り、内側にブリキを張り、木の継ぎ目と箱の口に和紙を張って仕上げるもので、昭和中期ごろが最も盛んでした。

朝比奈地区に伝承されている朝比奈和紙は、製茶との関わりが深く、茶の手揉^{てもみ}を行う際に敷く和紙や、茶を収納する茶袋などに用いられました。

8月に行われる殿の虫送り（岡部町殿）は、地元の小学生が、夕方に松明の明かりをともしながら田の畔を鉦を鳴らして歩き、田の虫を追払い稲の実りを祈願する行事です。

稲葉地区で伝承される、あげんだい（別名トーロン）は、瀬戸川の河原で松明を灯籠に向かつて投げ入れる盆行事です。

食文化では、徳川家康に献上されたという記述が朝比奈家文書^{あさひなちまき}に登場する朝比奈粽、東海道の街道名物として戦国時代から知られていたことが資料に記されている瀬戸の染飯、江戸時代までは徒歩わたりであった瀬戸川に明治時代になって架けられた勝草橋の近くで売られた勝草餅、昭和時代の東京オリンピックを記念した焼菓子のオリンピック焼き、サッカーボールをかたどったサッカーエース^{もなか}最中などがあります。

(3) 記念物

①遺跡（史跡）

市域では数多くの古墳が造られたことが特徴です。市内で数少ない前方後円墳である、高田観音前^{たかたかんのんまえ}2号墳（全長32m）は朝比奈川流域を見渡す場所、荘館山^{しょうくわんやま}1号墳（全長42m）・2号墳（全長37m）は瀬戸川流域を見渡す場所にあります。九景寺古墳は江戸時代から「九景寺の岩屋」として知られる、古墳時代後期の市域では最大の横穴式石室です。

奈良時代には市域は志太郡と益頭郡に該当しており、郡役所の遺跡は志太郡では国史跡「志太郡衙跡」として指定されているのに対し、益頭郡の郡役所として最も有力な遺跡が郡遺跡^{こおり}（立花・郡）です。



写真2-29 荘館山1・2号墳（前方後円墳）

②名勝地（名勝）

瀬戸川中流域の右岸にある金比羅山（志太）は、平野に向かって突き出した低丘陵で志太平野を一望することができます。この中腹から望む風景で、特に風情ある9つの景色が「志太九景」として江戸時代から知られていました。中国の瀟湘八景しょうしょうはっけいに倣って、日本でも8つの名所が選ばれたものとしては近江八景（滋賀県、琵琶湖の風景）が最も古く、その後も全国で様々な八景が選ばれましたが、志太においては9つの景色が選ばれています。

旧宿場町の町家や、社寺における庭園については、把握するための調査が行われておらず特徴がわかっていません。

③植物、動物、地質鉱物（天然記念物）

広幡地区の潮では貝殻が採掘されており、一帯がかつて海底にあり隆起した地質であることに由来します。瀬戸谷地区の滝ノ谷、朝比奈地区の青羽根では、明治時代にクローム鉱山で採掘がおこなわれました。

（4）文化的景観

大洲・高洲地区は近世以降に新田開発されました。大井川の洪水被害を多く受けたことから、家屋等を水害から守るため敷地の先端部を川の本流に向けて舟形や鋭角に造成した、特徴的な屋敷地が分布しています。舟（船）形屋敷・三角屋敷と呼ばれ、下流側の焼津市にかけても分布がみられます。洪水に備えた屋敷地が広がる集落景観です。



写真2-30 玉露生産の茶畑 薦かけ

朝比奈地区の岡部町宮島では、朝比奈玉露あさひなぎょくろの茶畑景観ちやばたけいかんがみられます。朝比奈川に沿った谷で所々みられる緩斜面を選地して茶畑とし、春先には玉露生産に特徴的な「薦かけ」の風景がみられます。山間地域において山裾の地形を利用した茶畑と集落の景観で、春先に季節限定の風景がみられることが特徴です。

（5）伝統的建造物群

旧藤枝宿の木町を中心とした一帯（茶町）では、明治時代以降に茶問屋など茶業者が多く集まるようになりますが、茶の取引に際して茶葉の色を見やすくするため、上部から外光を取り入れる独特の構造の窓をもつ茶商建物がみられます。

旧岡部宿では、町並みは現代的なものに、旧東海道は舗装道に変わっていますが、道幅はほぼ残っており、江戸時代の町家建築が現存する黒石家住宅（岡部町内谷）付近では、旧宿場町の雰囲気を残しています。

(6) 埋蔵文化財

市域では約180ヶ所の埋蔵文化財包蔵地が登録されています。

市内最古の遺跡は、旧石器時代後期のナイフ形石器が出土している天ヶ谷遺跡で、市内北部の山地から平野に面した丘陵地にかけて縄文時代の遺跡が分布しています。弥生時代前期には丘陵上、中期には朝比奈川・葉梨川・瀬戸川流域の低地に、後期には再び丘陵上で集落が営まれています。

古墳時代には、平野に面した低丘陵上に、前期後半から中期にかけて低墳丘墓が築造され始めます。突出した大規模な古墳はありませんが、若王子古墳群に代表されるような初期群集墳など個性的な墓制がみられます。後期初頭になると市域では初めて前方後円墳が登場し、市域では約1,500基にもものぼる横穴式石室の大古墳群が形成されました。

奈良・平安時代には平野部に、志太郡の郡役所に比定される御子ヶ谷遺跡（国史跡志太郡衙跡）や益頭郡の郡役所に比定される郡遺跡、郡役所の周辺に展開する関連集落が広がりを見せ、中世・近世にかけては花倉城跡や田中城跡などの山城や城館をはじめ、市域の歴史と密接に結びついた遺跡が所在しています。

表2-5 埋蔵文化財包蔵地の概要

※時代が重複する遺跡があるため、埋蔵文化財包蔵地の数とは一致しません。

時代 地域	旧 石 器	縄 文	弥 生	古 墳	古 代	中 世	近 世	計	備考
旧藤枝 市域	1	31	44	110	42	49	2	279	『藤枝市史』資料編1 考古 藤枝市 平成19年(2007)
旧岡部 町域	0	3	5	25	0	4	0	37	『静岡県文化財地名表Ⅱ』 静岡県教育委員会 平成元年(1989)
計	1	34	49	135	42	53	2	316	

(7) その他（伝説・民謡等）

伝説は東海道や宿場町にかかわるもの、社寺の由来にかかわるもの、日蓮上人や熊谷直実など歴史上の著名な人物にかかわるもの、岡部氏などの武家の由来にかかわるもの、本市とゆかりの深い徳川家康にまつわるものなどがあります。

また、本市が茶産地であることを反映する茶摘歌、農耕などの生業に欠かせない雨乞唄などの民謡が伝承されています。

3 日本遺産

【タイトル】

「日本初「旅ブーム」を起こした弥次さん喜多さん、駿州の旅
 ～滑稽本と浮世絵が描く東海道旅のガイドブック（道中記）～」

市域を東西に通過する東海道は、古代から現代にいたるまで各時代を通じて主要な幹線道路で、本市の政治・経済的な発展を支え、行き交う人や文物の交流により本市の歴史文化に影響を与えました。特に、江戸時代の東海道五十三次のうち市域に所在する藤枝宿・岡部宿は、現在の市街地の形成にもつながっています。宇津ノ谷峠を挟んで市域東側で接する、静岡市に所在する蒲原・由比・興津・江尻・府中・丸子の6宿を併せ、8宿にまたがる東海道沿いの、32件（追加認定により現在は35件）の構成文化財により、江戸時代の旅に焦点を当てたストーリーで、令和2年度前期に日本遺産に認定されました。

江戸時代には伊勢参りなどで庶民も旅を楽しんでおり、日本初の「旅の大ブーム」とも言うことができます。その火付け役となったのは、江戸時代に大流行した文学・美術の筆頭として十返舎一九の滑稽本「東海道中膝栗毛」や、歌川広重の描いた「東海道五十三次」の浮世絵であり、これを江戸時代の「ガイドブック（道中記）」と見立て、浮世絵に描かれた名所の景色や、膝栗毛に登場する弥次喜多の旅をたどりながら、街道名物の味を楽しむことができる「駿州の旅」をストーリーにまとめました。

ストーリーの概要

日本初の「旅の大ブーム」の火付け役は、十返舎一九の滑稽本「東海道中膝栗毛」であり、歌川広重の描いた「東海道五十三次」の浮世絵であった。「滑稽さ」「怖いもの見たさ」そして美味しい「名物」に引き寄せられるのは人の世の常。日本の「ガイドブックの原典」とも言われる「浮世絵」「滑稽本」に惹かれ、自由な移動が制限される江戸時代でも人々は物見遊山の旅へいそいそと出かけて行った。弥次さん喜多さんの「旅の楽しさ」は今も駿州で体感できる。富士山を仰ぎ見ながら江戸時代の「ガイドブック（道中記）」を片手に「東海道五十三次」の「真ん中」、駿州を巡る旅に出よう。

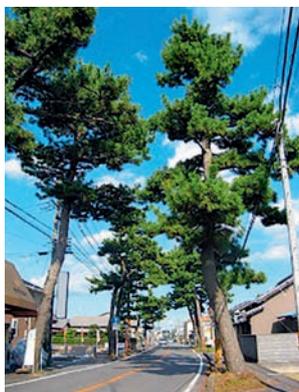


写真2-31 東海道松並木（上青島地区）



写真2-32 瀬戸の染飯（復元）

表2-6 ストーリーの構成文化財

番号	ふりがな 文化財の名称	指定等の 状況
①	かんばらじゆく 蒲原宿	未指定 史跡
②	きゆういずみ や やす どころ 旧 和泉屋 (お休み処)	国登録有形文化財
③	しだ けいゆうたく おもや 志田家住宅主屋	国登録有形文化財
④	ゆ いしゆく 由比 宿	未指定 史跡
⑤	しずおか し どうかい どうひろしげ び じゆつかんしよざう うきよ え 静岡市東海道広重美術館所蔵の浮世絵	未指定 美術工芸品
⑥	あい しゆくにしくらさわ 間の宿西倉沢	未指定 史跡
⑦	とうかい どう なぬし やかた こいけ けいゆうたく 東海道名主の館 (小池家住宅)	国登録有形文化財
⑧	きつ たとうげ 薩埵 峠	静岡市指定名勝
⑨	せいけん じ 清見寺	国指定史跡・名勝
⑩	み ほ まつばら 三保の松原	世界文化遺産富士山 構成資産 国指定名勝
⑪	え じりしゆくめいぶつ おいわけようかん 江尻宿名物 追分羊羹	未指定 民俗 (生活文化)
⑫	ふ ちゆうしゆく すん ぶきゆうじゆうろく かちよう 府中宿 (駿府九十六ヶ町)	未指定 史跡
⑬	ふ ちゆうしゆくめいぶつ あべ かわもち 府中宿名物 安倍川餅	未指定 民俗 (生活文化)
⑭	まり こしゆくめいぶつ じる 丸子宿名物 とろろ汁	未指定 民俗 (生活文化)
⑮	ちよう じ や 丁子屋	国登録有形文化財
⑯	けいりゆう じ 慶龍寺	未指定 建造物
⑰	あい しゆく うつ の や 間の宿宇津ノ谷	未指定 史跡
⑱	と おだん こ 十団子	未指定 民俗 (生活文化)
⑲	とうかい どう うつ の や とうげ ご 東海道宇津ノ谷峠越	国指定史跡
⑳	めい じ とう つ の か ぜい どう 明治宇津ノ谷隧道	国登録有形文化財
㉑	つた ほそみち 薦の細道	未指定 史跡 (静岡市) 藤枝市指定史跡
㉒	さかした じ ぞう どう 坂下地藏堂	未指定 建造物
㉓	ら けい き ひ 蘿徑記碑	藤枝市指定古文書
㉔	じつこくざかんの ん どう 十石坂観音堂	藤枝市指定建造物
㉕	おか べ しゆく おおはた ご かしぼ や 岡部宿大旅籠 柏屋	国登録有形文化財
㉖	おか べ しゆくほんじんあと 岡部宿本陣址	藤枝市指定史跡
㉗	とうかい どう まつ なみ き うつたに 東海道松並木 (内谷地区)	藤枝市指定史跡
㉘	た なかじょう 田中 城 田中城本丸櫓 (史跡田中城下屋敷)	藤枝市指定史跡 藤枝市指定建造物
㉙	だい けい じ 大慶寺 く おん まつ 久遠の松	未指定 建造物 県指定天然記念物
㉚	あく なみ じん じ や たい さい ほう の う お ど 飽波神社大祭の奉納踊り	藤枝市指定無形民俗
㉛	せ と そめい い 瀬戸の染飯	未指定 民俗 (生活文化)
㉜	とうかい どう まつ なみ き かみあおしま 東海道松並木 (上青島地区)	藤枝市指定史跡

序章

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

第7章

第8章

第9章

静岡市 (追加)	③③	ゆいしゆくめいぶつ たまごもち 由比宿名物 たまご餅	未指定 民俗 (生活文化)
	③④	きやえどしりょうかん わたなべけ どぞう 木屋江戸資料館 (渡邊家土蔵) と古文書	静岡市指定建造物・古文書
	③⑤	するがのくにそうじやしずおかせんげんじんじや 駿河国総社静岡浅間神社	国指定重要文化財建造物



図2-2 ストーリーを構成する8つの宿場町



図2-3 藤枝市域の構成文化財

第3章 藤枝市の歴史文化の特徴

本市の歴史文化は、おおむね北部の山岳地、中部の丘陵地、南部の平野の3つに分かれる地形と、朝比奈川・葉梨川・瀬戸川の3河川と大井川によって形成された地理的な条件のもとで、東海道の沿線にあって各時代の主要な交通路がもたらした文物の交流、駿河国西部にあたり遠江国との国境に面した位置にあったことなどを背景として、営まれた暮らしや文化活動が積み重なって形成されてきました。

市域をおおむね東西に通過する東海道は、日本遺産に認定された「駿州の旅」の江戸時代よりはるかに古く、奈良時代に成立しました。平安時代の古典文学、鎌倉時代の旅日記などに登場し、徳川家康など多くの有名な戦国大名が行き来するなど、東海道には歴史が積み重なっています。江戸時代には東海道五十三次の岡部宿・藤枝宿が成立、明治時代以降にも人々の多くの尽力が本市発展の基礎となりました。

市域は山岳地・丘陵地・平野でバランスよく構成され、それぞれの地域に応じた山・里・まちの暮らしや生業は多彩であり、街道や交通によって結びついて、密接に関わり合いながら発展してきました。このような特徴がよく活かされたのが茶業であり、本市を代表する伝統産業です。

以上のような本市の歴史文化の特徴を、次の8つの項目で捉えます。

藤枝市の歴史文化の特徴	
1	古代の志太郡・益頭郡と郡役所の風景 奈良時代に始まる志太平野の中心的役割と東海道
2	中世の武士と山城 駿河今川氏のルーツ藤枝 岡部氏・朝比奈氏の発祥、駿河今川氏発展の始まりの地
3	志太平野の拠点 家康ゆかりの田中城 戦国大名今川・武田・徳川の田中城争奪戦、家康が愛した鷹狩と田中城
4	江戸の東海道駿州の旅 宇津ノ谷峠をめぐる歴史と文化 東海道を行きかう人と文化の交流で発展するまち
5	町と村の暮らしと祈り 地域に根差した伝統の祭り、自然とともに暮らす知恵と災害への備え
6	明治の技術と近代化 ふじえだ鉄道遺産 先進的なトンネル開通、鉄道駅開業、軽便鉄道、交通網の中心地へ
7	藤枝から世界を目指した茶産業 外国との茶の直接貿易への熱意、三大産地となった玉露
8	文武両道の藤枝 文学とサッカー 田中藩校日知館の教えは文武両道、ゆかりの文学者とサッカーのまち

1 古代の志太郡・益頭郡と郡役所の風景

古墳時代の後期（6世紀）以降、平野部に面した丘陵には、約1,500基以上の群集墳が築られました。これらの古墳を営んだ人々は丘陵の麓や近くの平地で生活したと考えられます。横穴式石室では7・8世紀まで埋葬が続いており、古墳時代から奈良時代への移り変わりのなかで、人々の暮らしも続いていきました。8世紀に入り律令制度ができ、奈良の平城京を中心に、都と地方という行政区分ができると、市域はおおむね西側が駿河国志太郡、東側が益頭郡となりました。

志太の地名が詠まれた万葉歌「志太の浦を 朝漕ぐ船は因無しに 漕ぐらめかもよ 因こさるらめ（巻14）」によれば、一帯は水をたたえた湿地帯で船で行き来するような場所であり、生活できる場所は低丘陵上や山裾、流路に囲まれた島のような微高地であったようです。国指定史跡「志太郡衙跡」は、志太郡の郡役所に比定されますが、地形的な条件の制約を受けて設けられた、個性的な地方役所の在り方を示しています。市域のもう一方の益頭郡の郡役所に比定される郡遺跡や、志太郡（4～8郷）、益頭郡（8～11郷）の暮らしがあった集落、古代東海道も、現在見える志太平野とは異なった景観のなかにあります。駿河国の西部にあり、西の遠江から大井川を渡って駿河国へ進む入口という場所で形成された古代文化は、以降の時代に続く歴史文化の基礎になりました。



図3-1 古代の郡配置図 『図説藤枝市史』 p25（藤枝市、H25）より

2 中世の武士と山城 駿河今川氏のルーツ藤枝

平安時代後期ごろから地域に定着した武士の一族である岡部氏や朝比奈氏は、鎌倉幕府の御家人として登場します。中山間地域の谷部や山裾の安定した場所に本拠地を置き一帯には館や山城、ゆかりの寺院などが造営されました。市域の平野部を東西に通過する東海道は、鎌倉時代になると都と鎌倉を結ぶ重要な街道になりました。鎌倉時代の初めまでには、藤枝と岡部には市がたつような町場ができていたことが旅人が記した紀行文『海道記』などからわかります。平野部を通る主要街道の東海道だけでなく、山間部を通過して武士団の拠点地域を結び付ける街道もあり、様々な戦などの折には軍略上の重要ルートとなりました。

駿河を代表する戦国武将今川氏は、もとは三河が発祥の地ですが、建武4年（1337）に今川範国が、足利尊氏から与えられたのが葉梨荘（藤枝市葉梨地域）で、駿河国で最初に有した領地となりました。本拠地を駿府に移した後も、今川氏の駿河支配の最初の足掛かりとなった場所は駿河今川氏のルーツの地として長慶寺、遍照光寺（現徧照寺）などのゆかりの寺院が開かれて一族にとって重要な地でした。葉梨地域には、配下の武士の名が残る小字名や、五輪塔や無縫塔などの石塔群をはじめ今川氏とのゆかりを偲ばせる歴史文化資産が伝わっています。

東海一の弓取りと言われた今川義元は、家督を継ぐにあたり兄の玄広恵探と争い、戦乱が起こります。これが花蔵の乱で、敗死した兄が拠点としたのは葉梨地域で、花倉城が決戦の舞台となりました。戦国武将として名を馳せた義元にとってもゆかりが深い地です。



図3-2 中世の街道

3 志太平野の拠点 家康ゆかりの田中城

志太平野の中央に位置する田中城は、円形の縄張をもつ日本で唯一の城として知られています。14世紀頃に築かれたとされる城館を発祥とし、今川・武田・徳川・豊臣配下の時代を経て、江戸時代、幕末まで連綿と続いた城です。戦国時代からの平城であることは特徴的で、東海道の近接し瀬戸川・六間川の水運などの交通の要衝であることや、瀬戸川左岸の沖積地の微高地上にあって周囲が低湿地で攻めにくい、などの特徴があります。本丸・二の丸は方形で、当初城館であったことに由来すると考えられており、今川方の長谷川氏がこれを整備して守りますが、武田氏に攻略されます。武田氏配下の馬場美濃守信春は、二の丸と三の丸に計6カ所の丸馬出し（三日月堀）を備えるなど防御を固め、「田中の城」と名付けました。三の丸は単純な円ではなく四方に突出しており亀甲形の縄張りであったことから、亀甲城・亀城とも呼ばれました。

今川氏から独立し戦国大名として力を付けた徳川家康は、三河から東に攻め進み、駿河侵攻の足掛かりとして田中城攻めを開始します。田中城は難攻不落で、徳川の手には落ちるまで5年かかり、攻略にたいへん苦慮しました。また晩年は、家康が江戸幕府を開いてしばらく後、2代目秀忠に将軍職を譲って駿府に隠居すると、駿府からたびたび鷹狩のため田中城を来訪しました。元和2年（1616）の田中城来訪では、『元和年録』（徳川家や将軍の動向についての記録書）には、当時都ではやっていた料理である鯛の天ぷらを機嫌よく食したが、これが原因で体調をこわしたことが記されています。家康は、駿府城に戻って療養しますが、その甲斐なく最期を迎えました。

このように田中城と家康は、戦乱のさなかの壮年期と、隠居後鷹狩を楽しんだ晩年、2つの時期に大きなかわりがあります。

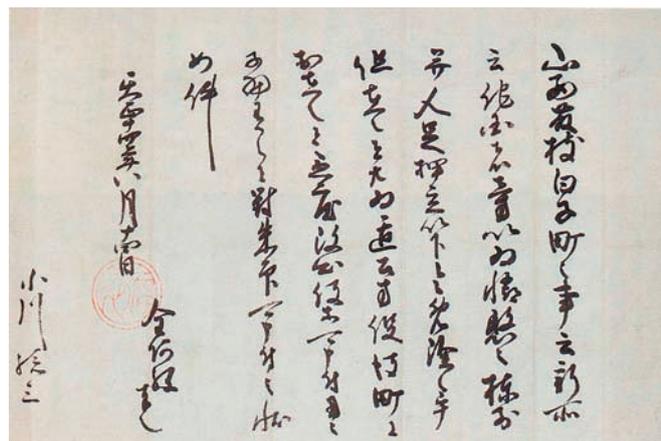


写真3-2 藤枝宿白子町と家康のゆかりを示す古文書

写真3-1 田中城絵図

4 江戸の東海道駿州の旅 宇津ノ谷峠をめぐる歴史と文化

東海道の歴史は古く、古代・中世と常に重要な幹線道路でありつづけてきましたが、江戸時代になると、政治の中心地である江戸と、伝統的な権力を有する京を結ぶ東海道は、主要幹線としてさらに重要になりました。東海道五十三次は江戸時代に定められた宿駅の制度で、市域には江戸から21番目の岡部宿、22番目の藤枝宿が置かれました。

宿場町での主要な任務である荷物の取次を行う問屋場といやばの様子は、歌川広重の浮世絵「隷書東海道」の「藤枝」で描かれています。大名など身分の高い人が宿泊する本陣は、岡部宿の内野本陣の跡地が史跡として保存されています。岡部宿・藤枝宿であった町場は近現代には商店街として引き続き町の中心地となり、間口が狭い町家が軒を連ねる様子は地割にその名残が伝わっています。

街道を行き交うのは、参勤交代の大名や、所用で江戸へ往来する皇族や公家だけでなく、一般庶民も伊勢参りなどの旅に出ました。旅のガイドブックとして、さまざまな絵図や解説書が出版され、なかでも『東海道中膝栗毛』が知られています。街道絵図には十石坂じっごくざか観音堂かんのどうや、鐘ヶ淵あぶみがふち、烏帽子山えぼしやまなどの名所が描かれ、街道名物としては岡部の豆腐や瀬戸の染飯が知られていました。往来する人々でにぎわう町は、現代の市街地の礎となりました。

浮世絵で描かれる岡部は、ほとんどが宇津ノ谷峠の風景で、東の丸子宿との間の峠越えの難所でした。平安時代の『伊勢物語』に登場するなど古来から難所「鶯の細道」として知られ、在原業平ありわらのなりひらが詠んだ和歌にちなみ歌枕の地となりました。後世のさまざまな文学や芸術の題材となり古典の聖地でしたが、峠越えの街道は暗く寂しい場所でもあり江戸時代の歌舞伎などでは怪談の舞台にもなりました。峠越えの道は、鶯の細道と呼ばれた古典ゆかりの古道が最古で、戦国時代に豊臣秀吉によって整備された道を江戸時代の東海道として（国史跡「旧東海道宇津ノ谷峠越」）通行していましたが、明治時代にはトンネルが掘削されて利便性が高まりました。国道1号の開通に伴って、大正・昭和・平成と続けてトンネルが整備されており、宇津ノ谷峠エリアでは古代から現代まで続く、峠越えの交通史をみることができます。



図3-3 宇津ノ谷峠付近の歴史文化資産

5 町と村の暮らしと祈り

宿場町をのぞく市域の多くは農村で、山林を利用しながら、田や畑での耕作をする暮らしのなかで、実りの豊かさや生活の平穏を神仏に祈願する行事が生活とともにありました。

祭礼行事は、神仏に奉納するものであり参加する人々の楽しみともなり、各地域で傳承されてきました。

滝沢八坂神社の田遊は、年の初めに一年間の農耕を模した演目を奉納して豊作祈願をするものです。高根白山神社に伝わる神楽は、静岡県中部地方の山間地域に数多く分布する湯立神楽のひとつで、その分布圏は、信仰や生活文化での人々の交流を反映しています。秋に打上が行われる朝比奈大龍勢は、全長10mを超える大型の打ち上げ花火で、朝比奈地域の人々がその技術を受け継いでいます。市域東部の高草山中腹（岡部町三輪）で行われる山の神をまつる行事は、焼津市にかけての高草山山麓に分布しており、高草山を信仰する文化圏の広がりが見えられます。旧藤枝宿の町々で飽波神社の祭礼において披露する、屋台の曳回しと長唄を伴奏とする踊りは、江戸時代の祭りの流れをくみ近現代の芸能が融合した、町衆の祭りが傳承されたもので「藤枝大祭り」として繼承される祭礼行事です。

江戸時代には耕地の拡大のため熱意ある人々により、大井川の氾濫原であった場所で新田開発が進みました。おもに大洲・高洲地区では新田開発にかかわった人物の名が冠された、善左衛門、兵太夫新田などの地名が残されています。また、住宅の敷地を船形や三角形にし頂点を大井川本流に向け、水流をよける工夫がなされました（船形屋敷・三角屋敷）。江戸時代初期に田中藩主水野忠善の命により築造された千貫堤は、大井川の氾濫から領地を守るためのものでした。近世までに大井川の流路は、現在の位置に定着したようですが、市域南部から焼津市にかけての下流域では大井川による水害が度々起こり、人々はこれを克服してきました。



写真3-5 飽波神社大祭の奉納踊り



写真3-6 朝比奈大龍勢



写真3-7 三角屋敷



写真3-3 滝沢八坂神社の田遊



写真3-4 高根白山神社古代神楽

6 明治の技術と近代化 ふじえだ鉄道遺産

江戸時代から明治時代に移り、武士の世から、住民たちの手で町を運営する新しい時代になり、東海道にかかわる交通も大きく変化しました。旧宿場町の有志たちにより、宇津ノ谷峠ではトンネル（明治宇津ノ谷隧道）の建設、瀬戸川では勝草橋の架橋などがなされ、近代的な土木工事の技術の導入によって、西洋式の馬車など車両の通行を容易にするなど、幹線道路としての機能を拡充するための事業が成し遂げられました。

東海道に鉄道が敷設されることになると、ルートや停車場（駅）の位置をめくり焼津・島田なども含めた志太地域の各地で、様々な議論や誘致の活動がなされました。旧藤枝宿場町でも駅の誘致に積極的な論もありましたが、青島村に設置されました。駅は当初「前島停車場」と呼ばれ、青地雄太郎が誘致活動に尽力したことが語り継がれています。鉄道の駅は新たな交通拠点となって発展し、駅を中心とした青島町と、旧宿場町を核とした藤枝町が、2つの中心的な市街地となっていきました。

経済・物流の伝統的な集積地であった旧藤枝宿場町では駅と接続する輸送手段の必要性が高まり、藤枝町下伝馬出身の笹野甚四郎をはじめ地域の有力者が発起人となって、軽便鉄道を敷設し1913年（大正2）に開業しました。藤相鉄道として、北は駿河岡部駅から、南は相良駅（牧之原市）から、それぞれ国鉄藤枝駅と隣接する藤枝新駅までを結び、人流・物流に大きな役割を果たしました。また、同じく笹野が中心となって、大井川上流域の地名（川根本町）から滝沢まで、物資を輸送するための川根電力索道（荷物運搬用リフト）を整備しました。山間部で市域を接する大井川上流域は旧来、峠を介して交流がある地域ですが、輸送力の向上により山間部と町場をさらに結び付ける役割を果たしました。



写真3-8 軽便鉄道 機関車B-15

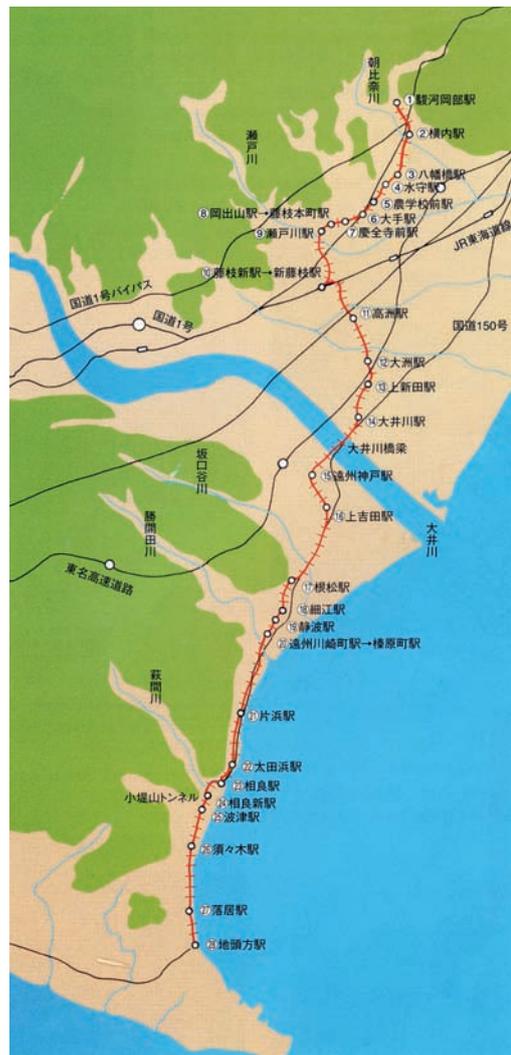


図3-4 軽便鉄道藤相線路線図

序章
第1章
第2章
第3章
第4章
第5章
第6章
第7章
第8章
第9章

7 藤枝から世界を目指した茶産業

市域の山間部では江戸時代後期には茶の生産が始まっていましたが、明治時代には輸出の主要な品目として増産が図られ、新たに茶園を開くことが盛んになりました。山間地域や平野に近い丘陵地では茶畑が多くみられ、生産された茶は、市街地の茶商のもとに集積され販売される、という山と町の交流によって茶産業が続いてきました。

明治時代に入り、江戸から静岡へ移住した旧幕臣たちが牧之原台地などの開拓に入ったことが知られていますが、朝比奈川流域の岡部町かつらしま桂島でも官林払下げを受けて、旧幕臣が茶園を開拓しました。開拓した茶園での茶栽培の技術や、手揉製茶の技能は先進地である京都・宇治で学んだ先人が地域に定着させ、地域の茶生産を発展させました。

朝比奈地区では、春先の茶園で、新芽が付く時期に霜を防ぐために藁をかけたことがきっかけで玉露の生産が始まりました。茶どころである静岡県ですが、玉露の産地として全国的にも知られている点は地域の個性となっています。

安政5年（1858）の開港後、輸出は横浜港に限定されていたため、茶産地からは横浜に荷を運ばなければならず、貿易は外国の商社が独占していました。明治29年（1896）には清水港が外貿易港に指定され静岡県からの茶輸出の条件が整ったことが契機となり、茶産地である藤枝の地で外国の商社と直接取引を行って貿易を行うことをめざした人々によって、明治34（1901）に藤枝製茶貿易株式会社が設立されました。会社の事務所建物は明治時代に特徴的な和洋折衷の意匠の建築で、商談のために来訪した外国の商人を迎えました。海外の文化や技術を取り込む先進的な気風を表し、藤枝の茶業のシンボリックな建物でした。

市域の茶産業は、茶葉を育て収穫する生産地・生産者、製茶仕上げを行う茶師、集積し販売する茶商の3者の交流・連携によって成り立っており、県内外の産地との切磋琢磨によって積み重ねた歴史があります。



写真3-9 茶畑風景



写真3-10 手揉製茶技術の伝習旗



写真3-11 製茶関係の古文書

8 文武両道の藤枝 文学とサッカー

江戸時代の田中藩には、文武を学ぶ藩校「日知館」があり、学問と武芸をともに鍛錬する場となっていました。「文」の教育は漢詩（漢学や儒学）、史学や数学のほか、書や画、和歌や俳諧など、「武」の教育は兵学、砲術や柔術のほか剣・弓・槍など様々な流派を学ぶことが出来ました。また宿場町の町人にも芸術や芸能に優れた文化人がおり、東海道を往来する全国的に著名な文化人と交流し、和歌や俳諧、書画などをたしなみ、近隣の村の文化人たちも交え、仲間で楽しんだようです。明治時代に江戸から静岡に移った幕臣の高橋泥舟などが、地域の子供を私塾で教育するなど、一流の知識人と地域の人々が文化や学問を介して交流をする機会もありました。

文芸をたしなむ人々が多く住した町からは、地元根差した文学者を輩出しました。旧藤枝宿場町が出身の作家、藤枝静男と小川国夫は、ともにその作中で藤枝の町を描いています。小川は、生涯藤枝の地で作品を執筆し、郷土の文学愛好家との交流を続けました。旧西益津村出身で、江戸から移ってきた幕臣の家に生まれた加藤まさをは、大正ロマンの時代を代表する挿画画家として知られています。また、旧朝比奈村出身の村越化石は、ハンセン病と闘いながら、その生涯において魂を込めた句を詠み続けた俳人です。この4人の文学者を中心として顕彰するため、藤枝市文学館では資料の収集や展示を行っています。

藤枝でサッカーが始まったのは1924年（大正13）に設立された県立志太中学校（現在の県立藤枝東高等学校）において、蹴球が校技とされたことがきっかけです。サッカーは運動量が豊富でボール一つあればだれでも参加できることから、教育的に効果があると考え、野球が全盛だった時代にあっては先進的な取組でした。これを受けて志太地域では児童にもサッカーが浸透し、サッカーのまち藤枝の風土が醸成されました。

このように、学問・文芸・武芸いずれにも励む気風は、近現代以降にも学問とスポーツの「文武両道」のまちに受け継がれました。

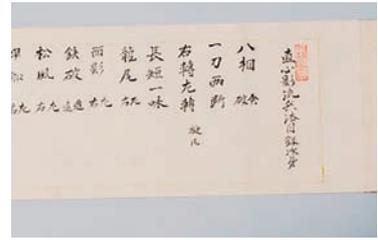


写真3-12 兵法巻物



写真3-13 高橋泥舟



写真3-14 小川国夫直筆原稿



写真3-15 村越化石句碑



写真3-16 藤枝東高サッカー部全国大会優勝の凱旋(昭和39年)

第4章 歴史文化資産の把握と調査

1 これまでの歴史文化資産の調査の概要

(1) 歴史文化資産の総合的な調査

藤枝市域におけるこれまでの歴史文化資産に関する調査は、江戸時代後期に編さんされた『駿河記』『駿国雑誌』などの地誌を基礎として、大正時代以降、昭和30年頃までの町村ごとの自治体史をはじめ、昭和40年代には、平成の合併前の藤枝市・岡部町においてそれぞれ市史（以下「旧市史」という）・町史の編さんが実施されました。

静岡県教育委員会による文化財調査、昭和60年から平成9年にかけて編さんされた静岡県史に伴う調査では、全県的な視点のもと市域に所在する主要な歴史文化資産について把握がなされました。

その後、平成10年～25年にかけて実施した藤枝市史編さん事業では、県史編纂の成果に基づきながら、市域に所在する歴史文化資産の基礎的な把握調査を行いました。

また、藤枝市郷土博物館における展示事業に伴う調査のほか、身近な地域の歴史文化に関心が高い郷土史家や、研究団体・市民の歴史団体等が地域史をまとめた冊子も発行されています。

①静岡県による調査事業

静岡県教育委員会が実施し県内の歴史文化資産を対象として実施した調査のうち、本市に関わる内容が掲載されているものは下記のとおりです。

表4-1 静岡県教育委員会（静岡県）の調査事業による刊行物一覧

※藤枝市の歴史文化資産が掲載されているもの

書名	シリーズ名等	発行者	発行年	
静岡県の民家	静岡県文化財調査報告書 第12集	静岡県文化財保存協会	昭和48年	1973
静岡県埋蔵文化財調査報告	静岡県文化財調査報告書 第13集	静岡県教育委員会	昭和50年	1975
静岡県の近世社寺建築 近世社寺建築緊急調査報告書	静岡県文化財調査報告書 第19集	静岡県教育委員会	昭和54年	1979
静岡県の中世城館跡	静岡県文化財調査報告書 第23集	静岡県教育委員会	昭和56年	1981
静岡県の民謡	静岡県文化財調査報告書 第34集	静岡県教育委員会	昭和61年	1986
静岡県の諸職 静岡県諸職関係民俗文化財調査報告書	静岡県文化財調査報告書 第41集	静岡県教育委員会	平成元年	1989
静岡県の窯業遺跡 静岡県内窯業遺跡分布調査報告書	静岡県文化財調査報告書 第42集	静岡県教育委員会	平成元年	1989

序章	静岡県の民俗芸能 静岡県民俗芸能緊急調査報告書	静岡県文化財調査 報告書 第50集	静岡県教育委員会	平成6年	1994
	静岡県の重要遺跡 (静岡県内重要遺跡詳細分布調査報告書)	静岡県文化財調査 報告書 第52集	静岡県教育委員会	平成10年	1998
第1章	静岡県歴史の道整備活用推進総合計画報 告書 東海道	静岡県文化財報告 書 第52集	静岡県教育委員会	平成11年	1999
	静岡県の祭り・行事 静岡県祭り・行事調査事業報告	静岡県の祭り・行 事調査事業報告書	静岡県教育委員会	平成12年	2000
第2章	静岡県の近代化遺産	静岡県近代化遺産 (建造物等) 総合調 査報告書	静岡県教育委員会	平成12年	2000
	静岡県的前方後円墳 静岡県内前方後円 墳発掘調査等事業報告	静岡県文化財調査 報告書 第55集	静岡県教育委員会	平成13年	2001
	静岡県の近代和風建築	静岡県近代和風建 築総合調査報告書	静岡県教育委員会	平成14年	2002
第3章	静岡県の古代寺院・官衙遺跡	静岡県文化財調査 報告書 第57集	静岡県教育委員会	平成15年	2003
	静岡県の天然記念物(地質鉱物) 天然記念物緊急調査(地質鉱物)報告書	静岡県文化財調査 報告書 第58集	静岡県教育委員会	平成16年	2004
第4章	静岡県の中近世墓 基礎資料編	静岡県文化財調査 報告書 第69集	静岡県教育委員会	令和元年	2019
	静岡県の中近世墓	静岡県文化財調査 報告書 第70集	静岡県教育委員会	令和2年	2020
	静岡県の中近世墓 総括・地域報告編	静岡県文化財調査 報告書 第71集	静岡県教育委員会	令和3年	2021
第5章	静岡県の文化的景観総合調査報告書	静岡県文化財調査 報告書 第72集	静岡県教育委員会	令和4年	2022

②平成の市史編さん事業に伴う調査

平成10～25年(1998～2013)まで実施した藤枝市史編さん事業は、旧市史や平成の静岡県史をふまえ、地区ごとの古文書調査の成果などにより資料編5冊と別編民俗を刊行(平成14～20年・2002～2008)しました。ここまでの対象地域は旧藤枝市域でしたが、通史編上・下及び図説市史の編さんにおいては、補足調査のうえ平成21年に合併した旧岡部町域を含めた藤枝市域を視野に入れた内容としました。なお、関連した出版物として、藤枝市域を構成している昭和30年頃までの旧町村ごとに、大正時代前後に編さんされた町村史を、藤枝市史叢書として復刻しました。また、合併前の岡部町では、平成17年(2005)に旧岡部町史の復刻と併せ、内容を補足する町史編さん事業を実施しました。

表4-2 藤枝市史・岡部町史編さん事業による刊行物一覧

書名	シリーズ名等	発行者	発行年	
藤枝市史	上	藤枝市	昭和55年	1980
藤枝市史	下	藤枝市	昭和46年	1965
藤枝市史	別編 民俗	藤枝市	平成14年	2002
藤枝市史	資料編2 古代・中世	藤枝市	平成15年	2003
藤枝市史	資料編3 近世一	藤枝市	平成16年	2004

岡部町史	復刻版（初版 昭和45年・1970）	静岡県志太郡岡部町	平成17年	2005
岡部町史	補巻版	静岡県志太郡岡部町	平成17年	2005
藤枝市史	資料編1 考古	藤枝市	平成19年	2007
藤枝市史	資料編4 近世二	藤枝市	平成20年	2008
藤枝市史	資料編5 近現代	藤枝市	平成20年	2008
藤枝市史	通史編上 原始・古代・中世	藤枝市	平成22年	2010
藤枝市史	通史編下 近世・近現代	藤枝市	平成23年	2011
図説藤枝市史		藤枝市	平成25年	2013
図説藤枝市史	改訂版	藤枝市	令和元年	2019

（2）歴史文化資産の個別の調査

昭和62年に開館した藤枝市郷土博物館では、地域に根差した歴史・文化・美術をテーマとした特別展・企画展を開催してきました。展示会のテーマは、本市の歴史文化の特徴をとらえたものであり、展示の企画にあたり各テーマごとに関連する歴史文化資産を、市域に限定せず歴史上ゆかりの深い近隣市町まで対象として把握調査しました。作成した展示図録等により、本市の歴史文化の特徴を広く市民に紹介するとともに、把握した資料について基礎的な報告書の役割も果たしています。平成19年に、郷土博物館に併設して開館した藤枝市文学館では、本市出身の文学者や文学・美術にかかわる資料収集や展示事業のため、把握調査を行っています。

このほか、無形の民俗文化財のうち「滝沢八坂神社の田遊」「朝比奈大龍勢」について内容を把握するための詳細調査、「高根白山神社古代神楽」「滝沢八坂神社の田遊」「滝沢八坂神社の神楽」について映像記録作成事業、歴史資料では、旧藤枝宿の内田家に伝来した練人形木型の資料群、鬼岩寺の石塔群の把握調査等を実施しています。

埋蔵文化財については、昭和22年（1947）に県立志太高等学校（県立藤枝東高等学校）で発足した郷土研究部による調査が行われ、市域における遺跡や考古資料についての知見の端緒となりました。昭和40年代には、地域の考古学研究団体である西駿考古学会を中心に発掘調査や、埋蔵文化財にかかわる調査研究が行われ、早くから民間の調査団体による調査が活発に実施されました。昭和50年代には日本住宅公団による住宅団地造成事業や、国道1号藤枝バイパス建設に伴う発掘調査など大規模調査が集中し、昭和51年には藤枝市教育委員会に埋蔵文化財発掘調査に従事する職員体制が整備され、以後も公共事業や民間開発に伴う発掘調査を実施してきました。

本市における、これまでの未指定の歴史文化資産の調査成果をまとめた刊行物は、次の表のとおりです。

表4-3 調査報告書等一覧

※藤枝市郷土博物館での展示図録を含む

序章	類型等	書名	シリーズ名等	発行者	発行年 (和暦)	発行年 (西暦)
第1章	美術工芸品 (絵画)	山水画と花鳥画	第7回特別展	藤枝市 郷土博物館	平成5年	1993
		久保井華蛙	第40回企画展	藤枝市 郷土博物館	平成11年	1999
		大塚荷溪と藤枝宿の文人たち	第16回特別展	藤枝市 郷土博物館	平成13年	2001
		東海道の浮世絵	藤枝市郷土博物館 企画展「東海道浮 世絵展」展示図録	藤枝市 郷土博物館・ 文学館	平成27年	2015
第2章	美術工芸品 (彫刻)	志太の木喰仏	開館一周年記念 特別展	藤枝市 郷土博物館	昭和63年	1988
	美術工芸品 (工芸品)	鍛冶と郷土刀	第9回企画展	藤枝市 郷土博物館	平成2年	1990
刀剣展		第18回企画展	藤枝市 郷土博物館	平成4年	1992	
第3章	美術工芸品 (書跡)	沖六鵬と藤枝	第3回特別展	藤枝市 郷土博物館	平成元年	1989
		小野鷲堂展	開館三周年記念 特別展	藤枝市 郷土博物館	平成2年	1990
第4章	美術工芸品 (古文書・ 歴史資料)	田中城と本多氏	開館記念特別展	藤枝市 郷土博物館	昭和62年	1987
		駿河の岩村藩	第1回企画展	藤枝市 郷土博物館	昭和63年	1988
		東海道五十三次	第2回企画展	藤枝市 郷土博物館	昭和63年	1988
		戦時中の暮らし	第7回企画展 昭和歴史	藤枝市 郷土博物館	平成元年	1989
		駿河今川氏	第13回企画展	藤枝市 郷土博物館	平成4年	1992
		東海道の名所と名物	第9回特別展	藤枝市 郷土博物館	平成7年	1995
		田中城絵図	第10回特別展	藤枝市 郷土博物館	平成8年	1996
		駿河の武田氏	第15回特別展	藤枝市 郷土博物館	平成12年	2000
		懐かしの軽便鉄道いまむかし		藤枝市 郷土博物館	平成13年	2001
		駿河国鬼岩寺中世墓・ 中世石塔群調査報告	藤枝市郷土博物館 調査報告2	藤枝市 郷土博物館	平成20年	2008
第5章	美術工芸品 (考古資料)	風林火山! 駿河を駆けた武田軍団展	藤枝市郷土博物館 第34回特別展図録	藤枝市 郷土博物館・ 文学館	平成28年	2016
		軽便鉄道 復刻版	市制施行 40周年記念展	藤枝市 郷土博物館	令和元年	2019
第6章	美術工芸品 (歴史資料)	国指定史跡志太郡衙跡 出土の文字資料		藤枝市 教育委員会	昭和57年	1982
	美術工芸品 (歴史資料)	駿河国鬼岩寺中世墓・ 中世石塔群調査報告	藤枝市郷土博物館 調査報告2	藤枝市 郷土博物館	平成20年	2008
第7章						
第8章						
第9章						

民俗文化財 (有形・無形)	滝沢の田遊び		滝沢八坂神社 田遊保存会	昭和54年	1979
	朝比奈の龍勢		岡部町 教育委員会	昭和60年	1985
	藤枝のお茶	第3回企画展	藤枝市 郷土博物館	昭和63年	1988
	藤枝の年中行事	第22回企画展	藤枝市 郷土博物館	平成5年	1993
	民俗芸能映像記録 (付属パンフレット) 高根白山神社古代神楽		藤枝市 教育委員会	平成7年	1995
	民俗芸能映像記録 (付属パンフレット) 滝沢八坂神社の田遊び		藤枝市 教育委員会	平成8年	1996
	志太の大絵馬	第43回企画展	藤枝市 郷土博物館	平成11年	1999
	志太の雛人形	第44回企画展	藤枝市 郷土博物館	平成12年	2000
	藤枝の練人形	藤枝市郷土博物館 調査報告書 第1集	藤枝市 郷土博物館	平成12年	2000
	藤枝大祭	第52回企画展	藤枝市 郷土博物館	平成13年	2001
	民俗芸能映像記録 (付属パンフレット) 滝沢八坂神社の神楽		滝沢八坂神社 の神楽保存会	平成15年	2003
記念物(動物・ 植物・地質鉱物)	瀬戸川水系の水生物	ポケット図鑑	藤枝市 郷土博物館	平成4年	1992
埋蔵文化財	釧 創刊号～第12号		静岡県立 藤枝東高等学校 郷土研究部	昭和24年 ～42年	1949～ 1967
その他	藤枝の文学	第15回企画展	藤枝市郷土博 物館	平成3年	1991
	加藤まさを	開館五周年記念 特別展	藤枝市郷土博 物館	平成4年	1992
	開館記念特別展 「小川国夫文学展 『アポロンの島』から50」 開館記念展「藤枝の文学－ 藤枝ゆかりの文学者たち－	藤枝市文学館 開館記念 展示解説図録	藤枝市 郷土博物館・ 文学館	平成19年	2007
	藤枝市伝説集		藤枝市 教育委員会	昭和53年	1978
	岡部のむかしばなし		岡部町 教育委員会	昭和53年	1978
	岡部史談 岡部のお宮さん		岡部町文化財 保存協会	平成3年	1991

序
章第
1
章第
2
章第
3
章第
4
章第
5
章第
6
章第
7
章第
8
章第
9
章

2 歴史文化資産の調査の課題

これまでの調査の内容をふまえ、市域の歴史文化資産を類型別に、①中山間地域、②東海道と関わる地域、③志太平野南部地域の3つの地域ごとにみた、今後の調査について課題となる点は下表のとおりです。なお、調査には、歴史文化資産の存在を把握するための把握調査、存在は知られているがその位置付けや評価をするための詳細調査、かつて調査

表4-4 未指定の歴史文化資産調査の状況

地域 種別		①中山間地域 【山・里】	②東海道と 関わる地域 【里・まち】	③志太平野 南部地域 【里】	調査の状況	
		瀬戸谷・稲葉・葉梨 ・岡部(朝比奈)	岡部(岡部)・広幡・ 藤枝・西益津・青島	高洲・大洲		
有形文化財	建造物	○	○	○	・旧宿場町の町家、社寺建築、茶業関連建造物など所在を把握しているが実測等の詳細調査が未実施である。 ・石造物は石塔については把握調査しているが、石塔以外の石造物は調査未実施である。	
	美術 工芸品	絵画	◎	◎	◎	・絵画・彫刻・工芸品・書跡典籍・歴史資料は、藤枝市史編さん事業による調査、市郷土博物館特別展等に伴う調査のほか、博物館収蔵資料として所在を把握している。 ・古文書は、藤枝市史編さん事業による調査、市郷土博物館特別展等に伴う調査のほか、博物館収蔵資料として所在を把握しているが、点数が膨大なものは資料群の内容をすべて解明できていないため、詳細調査が必要なものがある。 ・①中山間地域のうち岡部(朝比奈)地域と②東海道に関わる地域のうち岡部(岡部)地域では、藤枝市史編さん事業でまとめた資料編の対象に含まれなかったため追加して、把握調査が必要である。 ・考古資料は、開発に伴う発掘調査や藤枝市史編さんに伴う確認調査によって出土したもので、報告書にまとめたもののほか、資料の全体量が膨大で内容をすべて解明できていないものがあり、詳細調査が必要なものがある。
		彫刻	◎	◎	◎	
		工芸品	◎	◎	—	
		書跡・典籍	◎	◎	◎	
		古文書	○	○	○	
		考古資料	○	○	—	
		歴史資料	◎	◎	◎	
無形文化財		◎	—	—	・藤枝市史編さん事業による調査、市郷土博物館特別展等に伴う調査を実施した。	
民俗文化財	有形の民俗文化財	○	◎	—	・藤枝市史編さん事業において民俗調査を実施し、民俗編としてまとめられている。 ・①中山間地域のうち岡部(朝比奈)地域と②東海道に関わる地域のうち岡部(岡部)地域では、藤枝市史編さん事業でまとめた民俗編の対象に含まれなかったため、追加して把握調査が必要である。 ・かつて調査されているが、実施から年数が経過しているため現況調査が必要なものや、新たな視点で見直す再調査が必要なものがある。	
	無形の民俗文化財	○	○	—		
記念物	遺跡(史跡)	○	○	—	・開発に伴う発掘調査として実施しているため、一部調査にとどまっている。	
	名勝地(名勝)	—	△	—	・市史編さん事業において一部調査済みであるが、社寺等の庭園などは把握調査が未実施である。	
	動物・植物・地質鉱物 (天然記念物)	◎	◎	—	・市博物館特別展等に伴う調査を実施している。	
文化的景観		△	—	△	・静岡県による調査報告書に概要が掲載されたが、把握調査が必要である。	
伝統的建造物群		—	△	—	・一部を把握しているが、把握調査が未実施である。	
その他		◎	◎	◎	・市博物館特別展等に伴う調査、藤枝市史編さん事業の民俗調査において実施済みである。	

がなされているが調査の時代が古いため再評価するために行う再調査、現在の状況を確認するための現況調査があります。

藤枝市史編さん事業において、資料編の編さんに向けた古文書・歴史資料の把握調査を平成10～20年（1998～2008）に実施しました。旧岡部町域（岡部地区・朝比奈地区）は平成21年（2009）に合併し、把握調査の対象範囲に含まれなかったため、この地域を対象とした追加の把握調査が必要です。岡部町史（初版昭和45年・1970）で把握されているものについては、古文書や民俗文化財などでは追加の詳細調査が必要です。

類型別に見た、歴史文化資産の把握と調査の課題は次のとおりです。

有形文化財のうち建造物では、旧宿場町の町家、社寺建築、茶業関連建造物など、これまでに把握されているが、実測や評価のための詳細調査が必要なものがあります。建造物のうち石造物は、石塔については把握調査されていますが、それ以外の石造物は把握調査が一部にとどまっておらず十分でないものがあります。

有形文化財（美術工芸品）のうち古文書は、藤枝市史編さん事業で把握したもののうち、点数が膨大なものは全容が解明できていないため詳細調査が必要なものがあります。

民俗文化財は、藤枝市史編さん事業でまとめた民俗編に含まれなかった旧岡部町域（朝比奈地区・岡部地区）では把握調査が必要です。かつて調査がなされたが実施年代が古いため現況調査が必要なものや、新たな視点で再評価するための再調査が必要なものがあります。

記念物のうち名勝地では、社寺等の庭園などの把握調査が未実施です。

文化的景観は、①中山間地域では玉露生産の茶畑景観、③志太平野南部地域では三角屋敷等が分布する景観について、把握が一部にとどまっているため全容を把握するための調査が必要です。

伝統的建造物群は、②東海道と関わる地域では、旧岡部宿の町並み、旧藤枝宿木町の茶業関連の町並みについて、所在は知られていますが内容を把握できていないため把握調査が必要です。

その他伝説・民謡等は、藤枝市史編さん事業に伴う調査などを実施しています。